

# デートDVに関する意識調査

平成 26 年3月  
京都市

## 目 次

1. 調査の概要.....	3
2. 調査結果のまとめ.....	5
3. 調査結果の分析.....	9
回答者の属性.....	9
問1 あなたのことについて.....	10
問2 価値観・恋愛観について.....	13
問3 「デートDV」について.....	22
問4 交際相手との関係について.....	25
問5 交際相手にしてもよいと思うもの、思わないものについて.....	30
4. 自由記述のまとめ.....	42
5. 調査結果からみた課題.....	48
6. 調査票.....	56

# 1. 調査の概要

○調査の目的:DV防止法が適用されず対策が遅れている若い世代での恋人間の暴力(デートDV)について、京都市における若者のDVに関する意識、実態を明らかにし、予防啓発に取り組むための基礎資料とする。

○調査対象:京都市域に拠点を置く高等学校に在籍する学生

○調査方法:京都市内に拠点を置く高等学校に調査協力を依頼し、協力を得られた5校に在籍する学生を対象に調査を実施した。

4校については、担任が調査についての説明と調査票の配布を行い、その場で記入・回収した。1校については、ウィングス京都職員が、調査についての説明と調査票の配布を行い、生徒が各自郵送することで回収した。

○調査期間:平成25年1月～平成26年1月

○有効回収数:1,293(有効回収率 69.7%)

○調査内容

1. あなた(回答者)のことについて
2. 価値観・恋愛観について
3. 「デートDV」について
4. 交際相手との関係について
5. デートDVの内容について

○回収状況

配布数	回収数	有効回収数			有効回収率
1,856票	1,296票	1,293票			69.7%
		女性	男性	不明	
		667票 51.6%	624票 48.3%	2票 0.2%	

## ● 報告書の見方

- (1) 比率は、原則として各設問の無回答を含む集計対象総数(副設問では設問該当対象数)に対する百分比(%)を表している。1人の対象者に2以上の回答を求める設問では、百分比(%)の合計は100.0%を超える。
- (2) 百分比(%)は、小数点以下第2位を四捨五入し、小数点以下第1位までを表示した。四捨五入の結果、個々の比率の合計と全体の示す数値とが一致しないことがある。
- (3) 分類別の表中の百分比(%)は、すべて各分類項目の該当対象数を100.0%として算出した。
- (4) 図表にある「N」は、集計対象票数(あるいは、分類別の該当対象数)を示し、比率は「N」

を 100.0%として表した。

(5) クロス集計表の単位は、構成比 (%) である。

(6) クロス集計の結果を示す図表においては、該当者の少ない分類項目、及び「その他」「不明(無回答)」は省略しているものがあり、各分類項目の該当対象数の合計と集計対象総数は一致しないことがある。

## 2. 調査結果のまとめ

### 1. あなた（回答者）のことについて

#### 1-1. 自分の事が好きか

『自分の事が好き』（「好き」と「まあまあ好き」の合計）の割合は、女性は4割弱、男性は約5割、一方、『自分の事がきらい』（「あまり好きではない」と「きらい」の合計）の割合は、女性6割弱・男性5割弱で、男性に比べて女性の方が『自分の事がきらい』が11.0ポイント高くなっている。

#### 1-2. 性や恋愛についての情報源

女性の場合は、「友人・先輩」の割合が最も高く6割弱、次いで「テレビ・ラジオ」が約5割。男性の場合は、女性と同様に「友人・先輩」の割合が最も高く5割強、次いで「テレビ・ラジオ」が5割弱である。

パソコンと携帯での『インターネット』を情報源とする割合は、男性はどちらも約3割、女性は携帯が3割弱でパソコンが1割台となっている。

「授業」の割合は男女ともに2割台。「親」の割合は男女ともに1割を下回っている。

### 2. 価値観・恋愛観について

#### 2-1. 価値観・恋愛観について

「今の社会は、男女の不平等がまだまだあると思う」では、『そう思う』（「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計）と回答した割合は、男女ともに7割以上を占めている。

「（男性は仕事、）女性は子育てを優先させるべきだと思う」では、『そう思う』の割合が男女ともに4割を超えており、「男性は弱音を吐くべきではないと思う」では男性の約4割が『そう思う』と回答している。

恋愛観についての項目では、「付き合っている2人の間に、秘密や隠し事をしてはいけないと思う」「彼氏・彼女に対しては、自分が説教したり、教育などをしてもよいと思う」で、男女ともに3割を超えている。

また、すべての項目において、「そう思う」の割合は女性より男性が高く、「男性は弱音を吐くべきではないと思う」「付き合っている2人の間に、秘密や隠し事をしてはいけないと思う」「暴力を振るわれる方にも問題があると思う」「相手が同意しない限り別れることはできないと思う」では、男女で差がある。

### 3. 「デートDV」について

#### 3-1. 「デートDV」という言葉の認知度

「デートDV」という言葉を聞いたことが「ある」の割合は、女性4割弱・男性3割弱となっている。

### 3-2. デートDVの認知度

「デートDV」について知っているかたずねたところ、男女とも「まったく知らない」の割合が最も高く、男性では58.0%。一方、『知っている』（「よく知っている」と「少し知っている」の合計）と回答した割合は女性24.8%・男性17.3%で、女性の方が7.5ポイント高くなっている。

### 3-3. デートDVの見聞き

身近で「デートDV」を見たり聞いたりしたことがあるかたずねたところ、男女とも「まったくない」が最も高く、女性は7割強・男性は約8割であった。

『ある』（「よくある」と「少しある」の合計）と回答した割合は、女性10.0%・男性5.1%で、女性の方が約5ポイント高い。

## 4. 交際相手との関係について

### 4-1. 交際相手について

交際している相手がいるかたずねたところ、男女ともに、交際中もしくは交際経験ありは、6割を超える。

「彼氏・彼女がいたことはない」は男女ともに20%台半ば、「無回答」は10%台半ばとなっている。

### 4-2. 交際相手と出会ったきっかけ

交際相手と出会ったきっかけについてたずねたところ、「学校」の割合が際立って高く男女ともに7割を超えている。

次いで、「友人・先輩からの紹介」「部活・クラブ活動」が1割台後半で、他の項目は一けた台にとどまっている。

### 4-3. 交際相手への恐怖感などについて

「交際相手を怖い」と感じたことの有無についてたずねたところ、『ある』（「ある」と「少しある」の合計）と回答した割合は、女性22.9%で5人に1人以上であり、男性の13.7%と比較して9.2ポイントほど女性の割合が高くなっている。

「交際相手に絶対にさからえない」と感じたことの有無では、『ある』の割合は、女性11.5%・男性6.1%であった。

「交際相手を自分より上（対等ではない）」と感じた割合は、女性14.0%・男性10.1%で、3項目ともに女性の割合が高くなっている。

## 5. デートDVの内容について

### 5-1. 身体的暴力への同意

「殴ったりけったりする」で「してはならない」の割合は、女性では9割強、男性では9割弱であるが、女性の4.2%・男性の7.8%が『してもよい』（「してもよい」と「ときにはしてもよい」

の合計) と回答している。

「壁をたたいたり、物をけったりする」、「殴るふりをする」では、『してもよい』とする割合は、男女ともに2割前後である。

## 5-2. 精神的暴力への同意

『別れたら死ぬ』とおどす』では、女性の94.9%、男性88.6%が「してはならない」と回答している。

一方で、「無視する」は、男女ともに3割強が『してもよい』としている。

「携帯電話やメールにすぐ返事をしないと怒る」を除いた項目で、女性の方が男性より「してはならない」の割合が高くなっている。

## 5-3. 社会的暴力への同意

「自分(恋人)以外のアドレスを消す」では、男女ともに8割以上が「してはいけない」としている。

一方、『バイトや部活など』と『自分(恋人)といる時間』とどちらが大切かと聞く』では、女性の約4割、男性の4割弱が『してもよい』とし、「異性の友人と会うと怒る」では、女性の約3割、男性の2割強が『してもよい』としている。

社会的な項目については、「携帯電話をチェックする」以外の項目で、男性の方が女性より「してはならない」の割合が高くなっている。

## 5-4. 性的暴力への同意

「避妊に協力しない」「身体や性的なことをけなす」「イヤだと言っても裸の写真を撮る」「アダルト系の雑誌やDVDを無理やり見せる」で、女性の9割以上が「してはならない」と回答している。

男性で「してはならない」とする割合が9割を超えているのは、「イヤだと言っても裸の写真を撮る」のみで、「無理やり抱きついたりキスをしたりする」と「友だちに二人の性的な関係を話す」を除くすべての項目で「してはならない」の割合が女性よりも低くなっている。

## 5-5. 経済的暴力への同意

男女ともに「してはならない」の割合が高いのは、「バイトや仕事を強要し、給料を取りあげる」で男女ともに9割を超え、男性では唯一9割を超えている。

一方、「欲しいものを買ってあげないと機嫌が悪くなる」では、男性の1割強が『してもよい』としている。

経済的な暴力については、すべての項目において女性は「してはならない」割合が9割を超えており、男性の割合より高くなっている。

## 5-6. デートDVに遭った時の相談

デートDVの被害に遭った時の相談先については、男女ともに、「友だち・先輩」の割合が最も

高く、女性では7割以上・男性では約6割。次いで、「親」が女性で3割強・男性で約3割である。

「学校の先生や相談機関」「警察」「病院」「学校以外の相談機関」への相談はあまり高くない。

男女で比較すると、「友だち・先輩」は15.4ポイント女性の方が高く、「警察」は7.7ポイント男性の方が高くなっている。

#### 5-7. デートDVをなくすための方法

デートDVをなくすための方法では、男女ともに「デートDVについて（自分自身が）知ること」の割合が一番高く、男女ともに6割を超える。次いで「身近に安心していつでも相談できる場所があること」が女性47.7%・男性33.3%、「男女の対等な関係について学ぶ場があること」が女性28.8%・男性32.2%と続く。

「身近に安心していつでも相談できる場所があること」では、女性の方が14.4ポイント高くなっている。

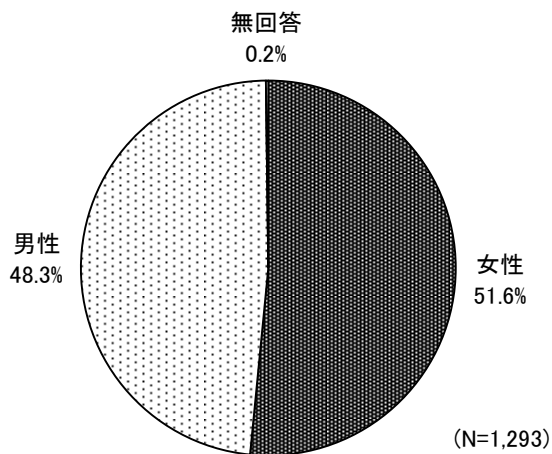


### 3. 調査結果の分析

#### 回答者の属性

##### 性別（問1-（1））

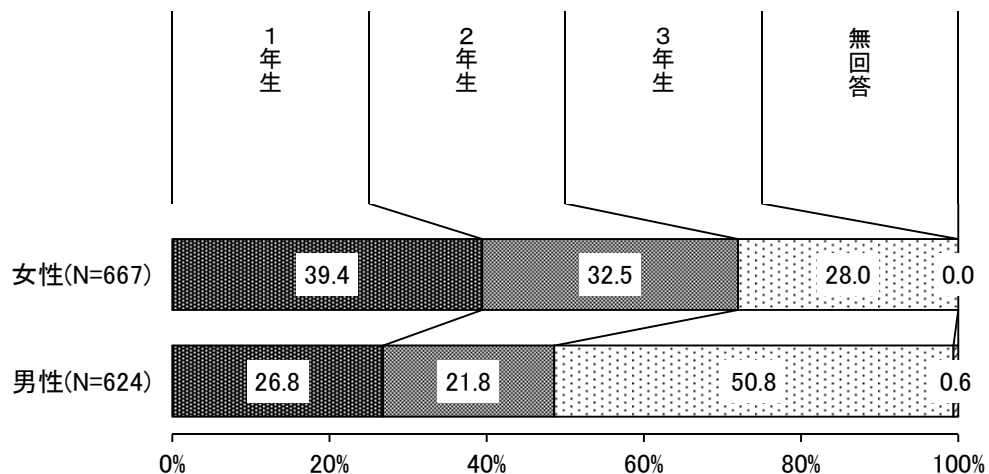
図1-1 回答者の性別



回答者の性別は、「女性」が51.6%、「男性」が48.3%で、男女がほぼ半々となっている。

##### 学年（問1-（2））

図1-2 回答者の学年



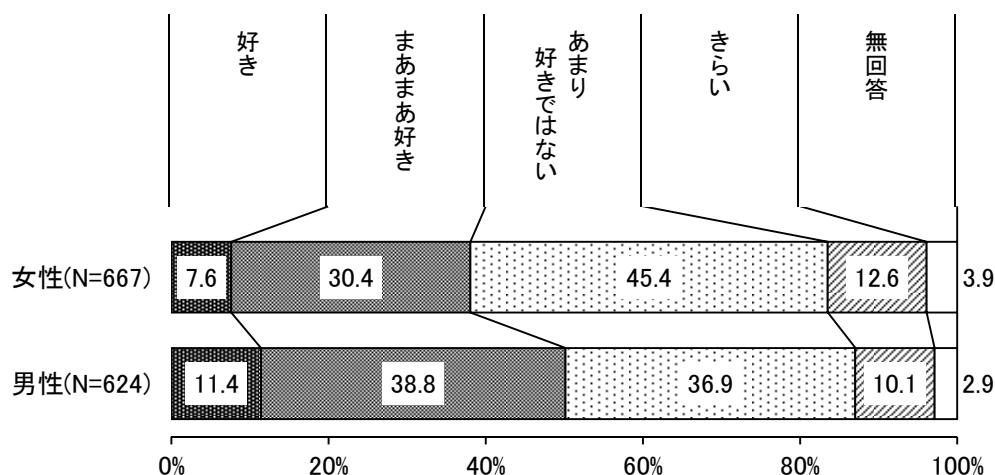
回答者の学年は、女性は「1年生」が最も高く39.4%、次いで「2年生」が32.5%、「3年生」が28.0%である。

男性は「3年生」が最も高く50.8%、次いで「1年生」が26.8%、「2年生」が21.8%である。

問1 あなたの事について

(3) 自分の事が好きですか？

図1-3 自己肯定感



■女性は6割弱が『自分の事がきれい』と思っている

自分の事が好きかどうかをたずねたところ、女性の場合は、「あまり好きではない」の割合が最も高く45.4%、「きれい」を合わせると58.0%で、「好き」「まあまあ好き」を合わせた38.0%よりも20ポイント高くなっている。

男性の場合は、「まあまあ好き」の割合が最も高く38.8%、次いで「あまり好きではない」が36.9%となっている。

『自分の事が好き』（「好き」と「まあまあ好き」の合計）の割合では、女性38.0%・男性50.2%で、男性の方が12.2ポイント高い。一方、『自分の事がきれい』（「あまり好きではない」と「きれい」の合計）の割合は、女性58.0%・男性47.0%で、女性の方が11.0ポイント高くなっている。

【性別・学年別】

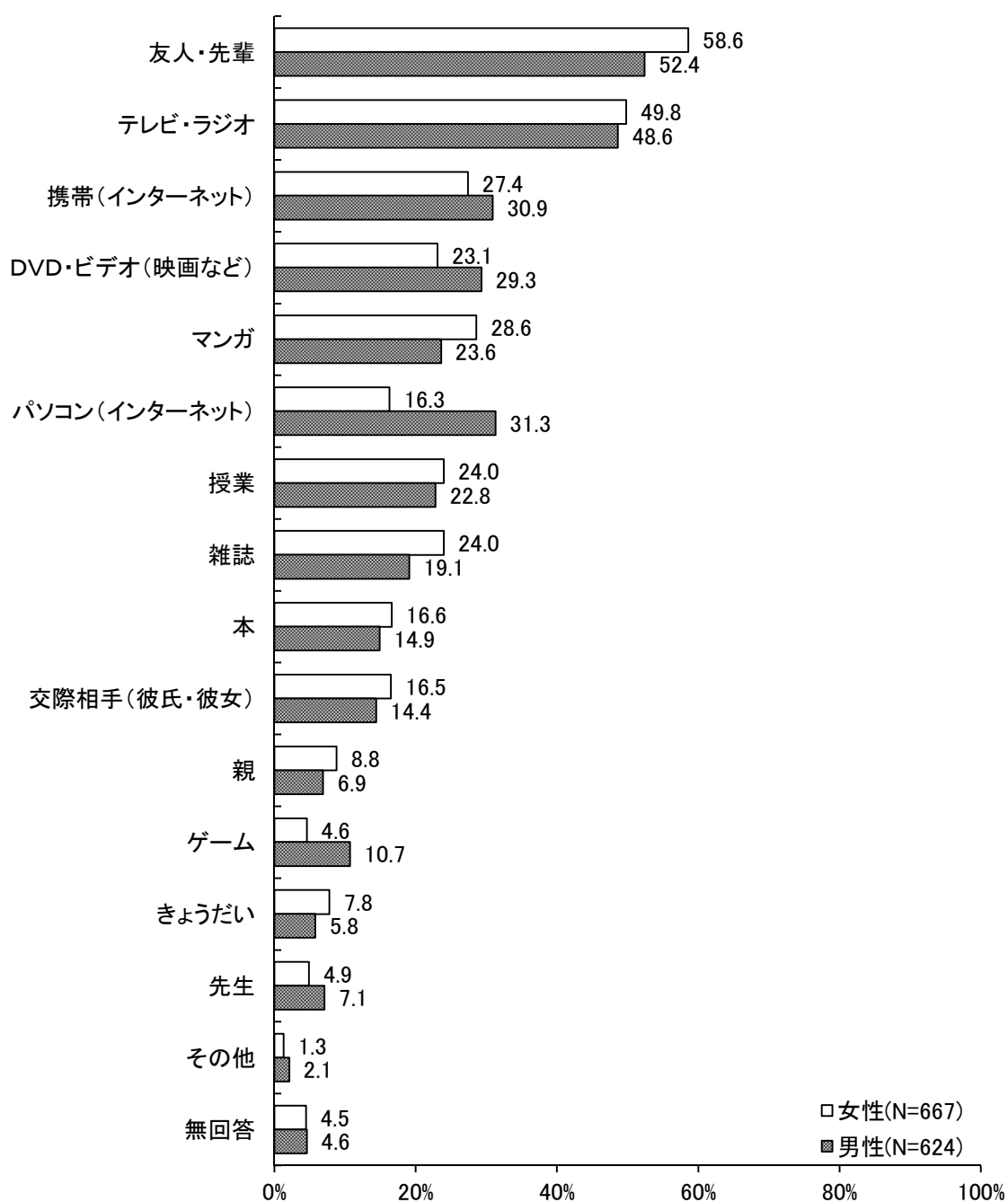
表1-1 性別・学年別 自己肯定感

		全体	好き	まあまあ好き	あまり好きではない	きれい	無回答
全体		1293	9.4	34.4	41.3	11.4	3.5
女性	1年生	263	7.6	30.8	42.2	14.8	4.6
	2年生	217	7.8	26.3	50.2	13.4	2.3
	3年生	187	7.5	34.8	44.4	8.6	4.8
男性	1年生	167	12.6	27.5	39.5	17.4	3.0
	2年生	136	8.1	43.4	35.3	9.6	3.7
	3年生	317	12.3	42.6	36.3	6.6	2.2

学年別にみると、女性では「きれい」の割合が高学年ほど低い。男性では、「まあまあ好き」が2年生・3年生で高く、「きれい」は学年が高いほど低くなっている。

(4) 性や恋愛についての情報はどこから得ていますか (〇はいくつでも) <sup>注</sup>

図1-4 性や恋愛についての情報源



注) 一部の調査協力校では「恋愛や性についての情報はどこから得ていますか」として質問した。

■男女とも「友人・先輩」, 「テレビ・ラジオ」の割合が高い

性や恋愛についての情報源をたずねたところ、女性の場合は、「友人・先輩」の割合が最も高く58.6%、次いで「テレビ・ラジオ」49.8%、「マンガ」28.6%、「携帯(インターネット)」27.4%である。

男性の場合は、女性と同様に「友人・先輩」の割合が最も高く 52.4%，次いで「テレビ・ラジオ」48.6%，「パソコン（インターネット）」31.3%，「携帯（インターネット）」30.9%，「DVD・ビデオ（映画など）」29.3%と続く。

男性の場合、パソコン、携帯ともに『インターネット』を情報源とする割合は、30%強と高い。

「授業」の割合は女性 24.0%・男性 22.8%，「親」の割合は女性 8.8%・男性 6.9%である。

男女で比較すると、「友人・先輩」では 6.2 ポイントほど女性の割合が高く、「パソコン（インターネット）」「DVD・ビデオ（映画など）」「ゲーム」では男性の割合が高くなっている。

## 【性別・学年別】

表 1-2 性別・学年別 性や恋愛についての情報源

		全体	友人・先輩	テレビ・ラジオ	携帯（インターネット）	DVD・ビデオ（映画など）	マンガ	パソコン（インターネット）	授業	雑誌
全体		1293	55.5	49.1	29.1	26.1	26.1	23.5	23.4	21.7
女性	1年生	263	55.1	52.9	28.1	28.1	34.6	16.3	27.8	26.6
	2年生	217	63.1	41.5	24.9	17.5	21.7	17.1	25.3	21.2
	3年生	187	58.3	55.1	29.4	22.5	28.3	15.5	17.1	23.5
男性	1年生	167	49.7	49.7	23.4	27.5	24.0	25.7	24.0	15.6
	2年生	136	55.1	37.5	32.4	26.5	25.7	36.8	19.9	20.6
	3年生	317	52.7	52.1	34.1	30.9	22.4	31.9	23.3	19.6

		全体	本	交際相手（彼氏・彼女）	親	ゲーム	きょうだい	先生	その他	無回答
全体		1293	15.8	15.5	7.9	7.6	6.8	6.0	1.7	4.6
女性	1年生	263	20.5	16.0	9.1	5.3	9.1	5.3	1.5	4.6
	2年生	217	11.5	16.1	7.4	5.1	6.0	5.5	1.8	2.3
	3年生	187	17.1	17.6	10.2	3.2	8.0	3.7	0.5	7.0
男性	1年生	167	16.2	9.0	9.0	11.4	6.0	7.2	1.2	6.0
	2年生	136	18.4	12.5	3.7	11.0	4.4	5.9	3.7	4.4
	3年生	317	12.6	17.7	7.3	10.4	6.0	7.3	1.9	4.1

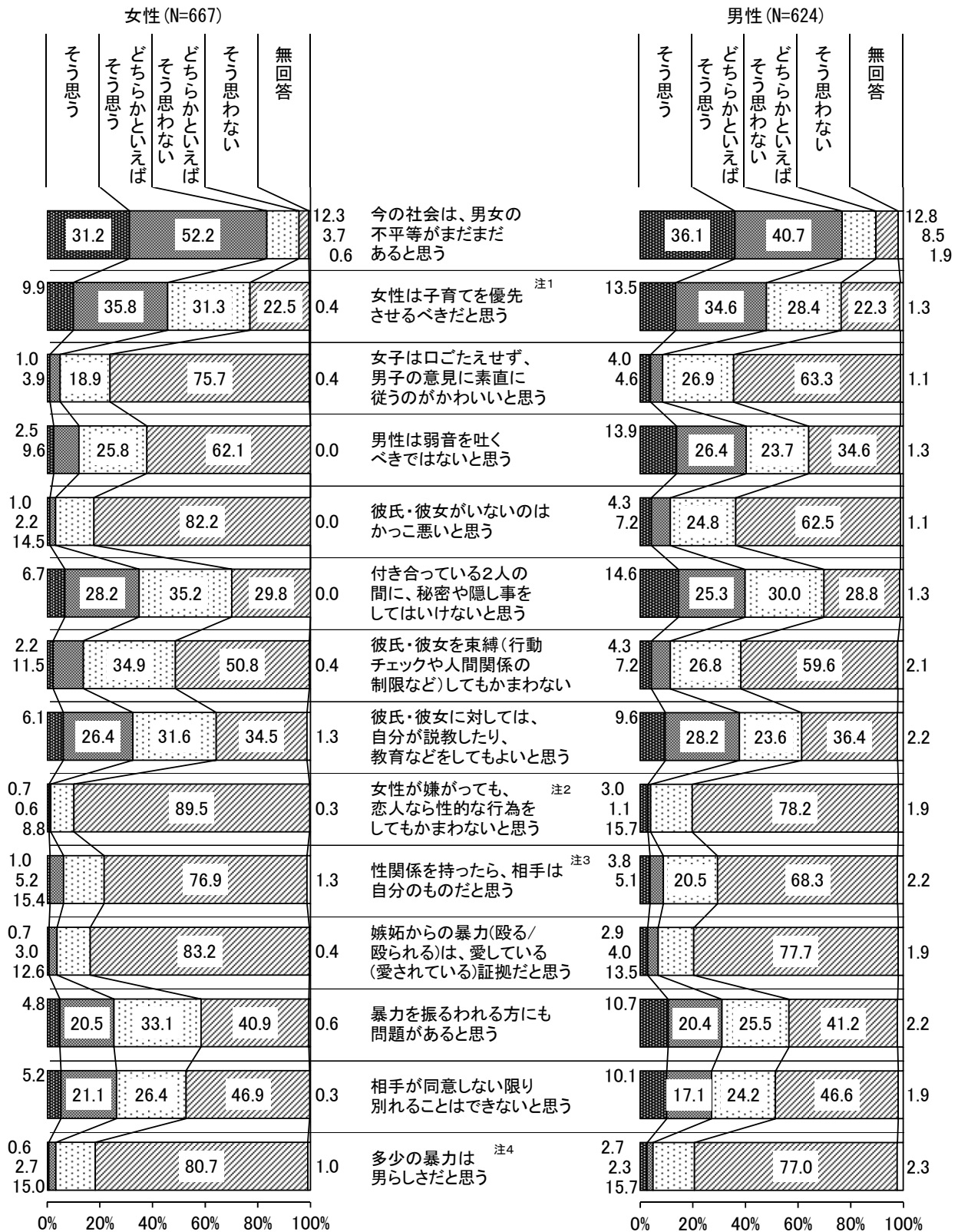
学年別にみると、女性の場合は、1年生では、「DVD・ビデオ（映画など）」「マンガ」が他の学年より高い割合になっている。2年生では情報源が「友人・先輩」の割合が他の学年よりも高く、その逆に「テレビ・ラジオ」では他の学年よりも低い割合となっている。

男性の場合は、2年生では「パソコン（インターネット）」、3年生では「交際相手（彼氏・彼女）」で他の学年より若干高い割合になっている。

問2 価値観・恋愛観について

問2 次のような価値観・恋愛観について、あなた自身はどう思いますか。(〇はそれぞれにひとつ)

図2-1 価値観・恋愛観



## ■大半が「男女の不平等がまだまだある」と思う一方で、「女性は子育てを優先させるべき」と思う割合は男女ともに4割を超える

価値観・恋愛感についてたずねたところ、「今の社会は、男女の不平等がまだまだあると思う」で『そう思う』（「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計）と回答した割合は女性83.4%・男性76.8%となっている。

「(男性は仕事,) 女性は子育てを優先させるべきだと思う」では、女性45.7%・男性48.1%、「男性は弱音を吐くべきではないと思う」では男性の40.3%が『そう思う』と回答している。

続いて、恋愛観についての項目では、「付き合っている2人の間に、秘密や隠し事をしてはいけないと思う」では女性34.9%・男性39.9%、「彼氏・彼女に対しては、自分が説教したり、教育などをしてよと思う」では女性32.5%・男性37.8%、「暴力を振るわれる方にも問題があると思う」では女性25.3%・男性31.1%が『そう思う』と回答している。

また、すべての項目において、「そう思う」の割合は女性より男性が高く、「男性は弱音を吐くべきではないと思う」「付き合っている2人の間に、秘密や隠し事をしてはいけないと思う」「暴力を振るわれる方にも問題があると思う」「相手が同意しない限り別れることはできないと思う」では、男女で差がある。

注1) 一部の調査協力校では「男性は仕事, 女性は子育てを優先させるべきだと思う」として質問した。

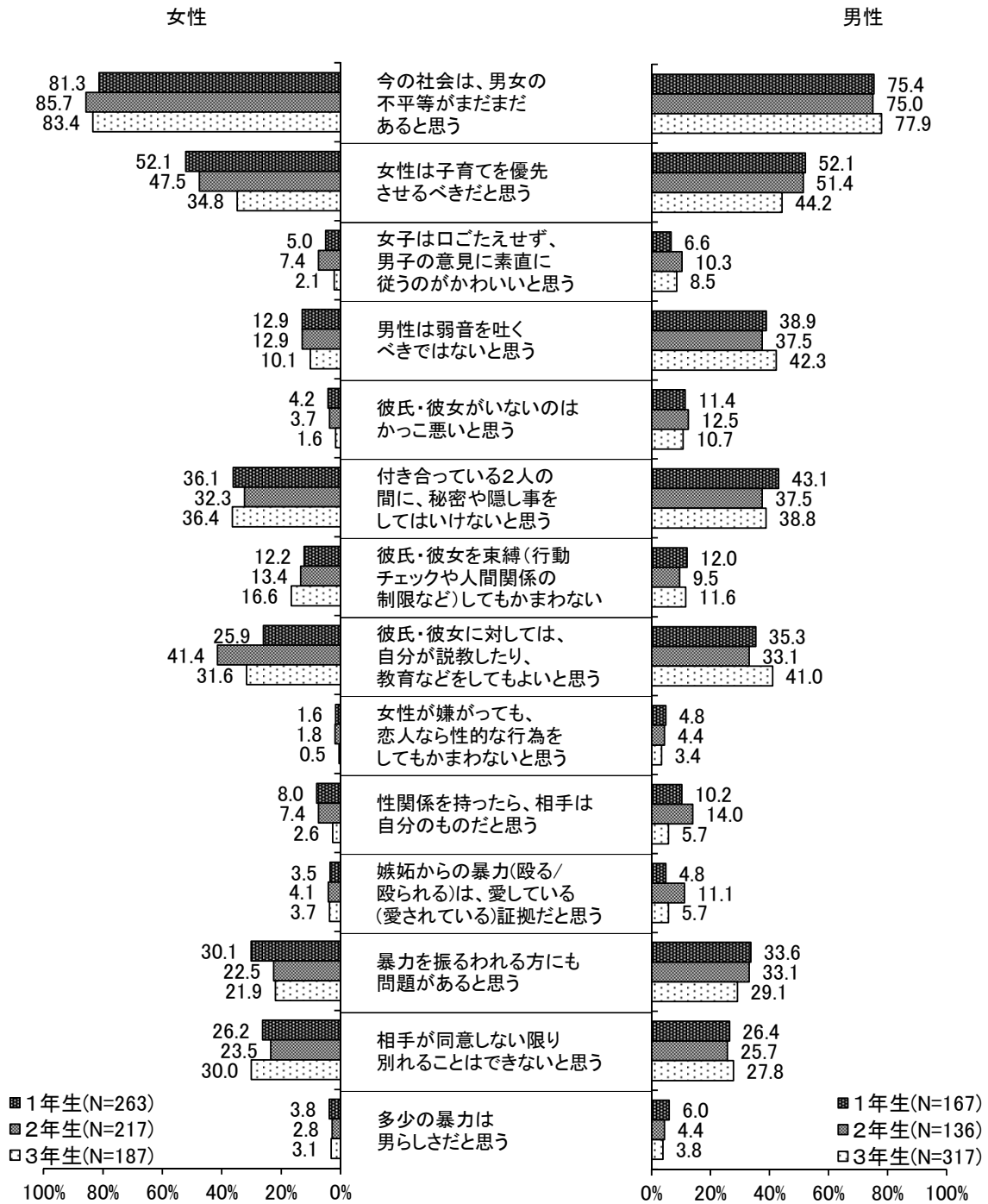
注2) 一部の調査協力校では「相手が嫌がっても, 恋人なら性的な行為をしてもかまわないと思う」として質問した。

注3) 一部の調査協力校では「性関係を持ったら, 相手は自分の思うようにしていいと思う」として質問した。

注4) 一部の調査協力校では設問を設けていないため回答者数が異なる(女性:N=512, 男性:N=439)。

【性別・学年別】

図2-2 性別・学年別 価値観・恋愛観  
 (「そう思う」+「どちらかといえばそう思う」)



性別・学年別で『そう思う』の割合をみると、男女ともに「(男性は仕事,) 女性は子育てを優先させるべきだと思う」「暴力を振るわれる方にも問題があると思う」では学年が高いほど、その割合は低くなっている。

**【性別・性別役割分担意識別】**

「肯定グループ」＝「(男性は仕事,) 女性は子育てを優先させるべきだと思う」について「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」と回答したグループ

「否定グループ」＝「(男性は仕事,) 女性は子育てを優先させるべきだと思う」について「そう思わない」と「どちらかといえばそう思わない」と回答したグループ

**表 2-1 性別・性別役割分担意識別**

「付き合っている 2 人の間に、秘密や隠し事をしてはいけないと思う」

	全体	そう思う	そう 思 う い え ば	ど ち ら か と 思 わ な い	ど ち ら か と い え ば そ う 思 わ な い	そう 思 わ な い	無 回 答
全体	1293	10.5	26.8	32.7	29.3	0.7	
女性	肯定グループ	305	8.5	31.1	35.4	24.9	-
	否定グループ	359	5.3	25.6	35.1	34.0	-
男性	肯定グループ	300	21.0	30.7	26.7	21.3	0.3
	否定グループ	316	8.5	20.9	33.9	36.7	-

「(男性は仕事,) 女性は子育てを優先させるべきだと思う」についての考え方でクロス集計をした結果、男女ともに性別役割分担意識の否定グループの方が『そう思わない』の割合が高く、特に男性では 22.6 ポイントの差がある。

**表 2-2 性別・性別役割分担意識別**

「彼氏・彼女に対しては、自分が説教したり、教育などをしてもよいと思う」

	全体	そう思う	そう 思 う い え ば	ど ち ら か と 思 わ な い	ど ち ら か と い え ば そ う 思 わ な い	そう 思 わ な い	無 回 答
全体	1293	7.8	27.2	27.8	35.4	1.8	
女性	肯定グループ	305	8.2	27.5	35.4	27.5	1.3
	否定グループ	359	4.5	25.3	28.4	40.4	1.4
男性	肯定グループ	300	12.3	31.3	24.7	30.0	1.7
	否定グループ	316	7.3	25.9	22.8	43.4	0.6

男女ともに性別役割分担意識の否定グループの方が『そう思わない』の割合が高く、特に男性では 11.5 ポイントの差がある。



表 2-3 性別・性別役割分担意識別 「暴力を振るわれる方にも問題があると思う」

	全体	そう思う	そう思う いえば	どちらかと 思わない	どちらかと いえばそう	そう思わない	無回答
全体	1293	7.7	20.4	29.5	41.0	1.4	
女性	肯定グループ	3.9	24.6	34.4	36.1	1.0	
	否定グループ	5.6	17.3	32.0	44.8	0.3	
男性	肯定グループ	13.3	23.0	25.0	37.3	1.3	
	否定グループ	8.5	18.0	26.6	45.9	0.9	

男女ともに性別役割分担意識の否定グループの方が『そう思わない』の割合が高く、特に男性では10.2ポイントの差がある。

表 2-4 性別・性別役割分担意識別 「相手が同意しない限り別れることはできないと思う」

	全体	そう思う	そう思う いえば	どちらかと 思わない	どちらかと いえばそう	そう思わない	無回答
全体	1293	7.6	19.3	25.4	46.7	1.1	
女性	肯定グループ	4.9	23.0	28.2	43.3	0.7	
	否定グループ	5.6	19.5	24.5	50.4	-	
男性	肯定グループ	11.7	18.0	27.3	42.0	1.0	
	否定グループ	8.9	16.8	21.8	51.9	0.6	

男女ともに性別役割分担意識の否定グループでは「そう思わない」の割合が50%を超えているものの、『そう思わない』でみると否定グループの方が肯定グループより女性3.4ポイント、男性4.4ポイント高い程度である。

【性別・2人の間での秘密や隠し事の賛否別】

「賛成グループ」＝「付き合っている2人の中での秘密や隠し事をするのはいけないと思う」について「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」と回答したグループ

「反対グループ」＝「付き合っている2人の中での秘密や隠し事をするのはいけないと思う」について「そう思わない」と「どちらかといえばそう思わない」と回答したグループ

表2-5 性別・2人の中での秘密や隠し事の賛否別

「彼氏・彼女に対しては、自分が説教したり、教育などをしてもよいと思う」

	全体	そう思う	そう思う い え ば	ど ち ら か と	思 わ な い い え ば そ う	ど ち ら か と	そ う 思 わ な い	無 回 答
全体	1293	7.8	27.2	27.8	35.4	1.8		
女性	賛成グループ	233	5.6	28.8	36.1	27.0	2.6	
	反対グループ	434	6.5	25.1	29.3	38.5	0.7	
男性	賛成グループ	249	14.1	32.9	24.9	26.9	1.2	
	反対グループ	367	6.5	25.6	23.2	43.6	1.1	

「付き合っている2人の中での秘密や隠し事をするのはいけないと思う」についての考え方でクロス集計をしたところ、男性では、『そう思わない』割合が、賛成グループより反対グループの方が15.0ポイント高くなっている。女性では4.7ポイントの差である。

表2-6 性別・2人の中での秘密や隠し事の賛否別「暴力を振るわれる方にも問題があると思う」

	全体	そう思う	そう思う い え ば	ど ち ら か と	思 わ な い い え ば そ う	ど ち ら か と	そ う 思 わ な い	無 回 答
全体	1293	7.7	20.4	29.5	41.0	1.4		
女性	賛成グループ	233	5.6	23.2	33.0	36.5	1.7	
	反対グループ	434	4.4	19.1	33.2	43.3	-	
男性	賛成グループ	249	14.1	23.7	27.3	33.7	1.2	
	反対グループ	367	8.7	18.5	24.8	46.9	1.1	

男女ともに、反対グループの方が賛成グループよりも「暴力を振るわれる方にも問題があると思う」について『そう思わない』の割合が高く、女性では7.0ポイント、男性では10.7ポイントの差がある。

表2-7 性別・2人の間での秘密や隠し事の賛否別

「相手が同意しない限り別れることはできないと思う」

	全体	そう思う	そう思う いえば	どちらかと 思わない	どちらかと いえばそう	そう思わない	無回答
全体	1293	7.6	19.3	25.4	46.7	1.1	
女性	賛成グループ	233	6.4	29.2	21.0	42.5	0.9
	反対グループ	434	4.6	16.8	29.3	49.3	-
男性	賛成グループ	249	14.5	22.1	27.7	34.5	1.2
	反対グループ	367	7.4	14.2	22.3	55.6	0.5

男女ともに、反対グループの方が賛成グループよりも「相手が同意しない限り別れることはできないと思う」について『そう思わない』の割合が高く、女性では15.1ポイント、男性では15.7ポイントの差がある。特に男性の「そう思わない」では21.1ポイントの差がある。

【性別・相手に対して説教や教育をすることの賛否別】

「賛成グループ」＝「彼氏・彼女に対しては、自分が説教したり、教育などをしてもよいと思う」  
について「そう思う」と「どちらかといえはそう思う」と回答したグループ

「反対グループ」＝「彼氏・彼女に対しては、自分が説教したり、教育などをしてもよいと思う」  
について「そう思わない」と「どちらかといえはそう思わない」と回答したグループ

表2-8 性別・相手に対して説教や教育をすることの賛否別

「付き合っている2人の間に、秘密や隠し事をしてはいけないと思う」

	全体	そう思う	そう思う いえば	どちらかと 思わない	どちらかと いえばそう	そう思わない	無回答
全体	1293	10.5	26.8	32.7	29.3	0.7	
女性	賛成グループ	217	8.8	28.1	37.3	25.8	-
	反対グループ	441	5.4	27.9	34.9	31.7	-
男性	賛成グループ	236	19.1	30.5	26.3	23.7	0.4
	反対グループ	374	11.8	22.7	33.2	32.4	-

男性では反対グループの方が賛成グループよりも「付き合っている2人の間に、秘密や隠し事をしてはいけないと思う」について『そう思わない』の割合が15.6ポイント高くなっている。女性では3.5ポイントの差である。

表2-9 性別・相手に対して説教や教育をすることの賛否別

「暴力を振るわれる方にも問題があると思う」

	全体	そう思う	そう思う いえば	どちらかと 思わない	どちらかと いえばそう	そう思わない	無回答
全体	1293	7.7	20.4	29.5	41.0	1.4	
女性	賛成グループ	217	8.3	27.6	27.6	36.4	-
	反対グループ	441	2.9	17.0	36.1	43.5	0.5
男性	算定グループ	236	18.6	26.3	25.8	29.2	-
	反対グループ	374	6.1	17.4	26.2	49.7	0.5

男女ともに反対グループの方が賛成グループよりも「暴力を振るわれる方にも問題があると思う」について『そう思わない』の割合が高く、女性では15.6ポイント、男性では20.9ポイントの差がある。

表2-10 性別・相手に対して説教や教育をすることの賛否別

「相手が同意しない限り別れることはできないと思う」

	全体	そう思う	そう思う いえば	どちらかと 思わない	どちらかと いえばそう	そう思わない	無回答
全体	1293	7.6	19.3	25.4	46.7	1.1	
女性	賛成グループ	217	9.7	26.7	28.6	35.0	-
	反対グループ	441	3.2	18.4	25.2	53.3	-
男性	算定グループ	236	16.5	22.5	22.0	39.0	-
	反対グループ	374	6.1	14.4	26.2	52.7	0.5

男女ともに反対グループの方が賛成グループよりも「暴力を振るわれる方にも問題があると思う」について『そう思わない』の割合が高く、女性では14.9ポイント、男性では17.9ポイントの差があり、反対グループの「そう思わない」の割合は男女ともに50%を超えている。

**【性別・暴力を振るわれる方にも問題があるへの賛否別】**

「賛成グループ」＝「暴力を振るわれる方にも問題があると思う」について「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」と回答したグループ

「反対グループ」＝「暴力を振るわれる方にも問題があると思う」について「そう思わない」と「どちらかといえばそう思わない」と回答したグループ

**表2-11 性別・暴力を振るわれる方にも問題があるへの賛否別**  
「相手が同意しない限り別れることはできないと思う」

	全体	そう思う	そう 思 う い え ば	ど ち ら か と 思 わ な い	ど ち ら か と い え ば そ う 思 わ な い	そう 思 わ な い	無 回 答
全体	1293	7.6	19.3	25.4	46.7	1.1	
女性	賛成グループ	169	9.5	25.4	27.2	37.9	-
	反対グループ	494	3.8	19.4	26.3	50.4	-
男性	算定グループ	194	19.6	17.5	27.8	34.5	0.5
	反対グループ	416	5.8	17.5	23.3	53.1	0.2

「暴力を振るわれる方にも問題があると思う」の賛否別でみると、男女ともに反対グループの方が『そう思わない』の割合が高く、女性で11.6ポイント、男性で14.1ポイントの差があり、ともに「そう思わない」の割合は50%を超えている。

**【性別・別れに同意が必要な賛否別】**

「賛成グループ」＝「相手が同意しない限り別れることはできないと思う」について「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」と回答したグループ

「反対グループ」＝「相手が同意しない限り別れることはできないと思う」について「そう思わない」と「どちらかといえばそう思わない」と回答したグループ

**表2-12 性別・別れに同意が必要な賛否別**

「彼氏・彼女に対しては、自分が説教したり、教育などをしてもよいと思う」

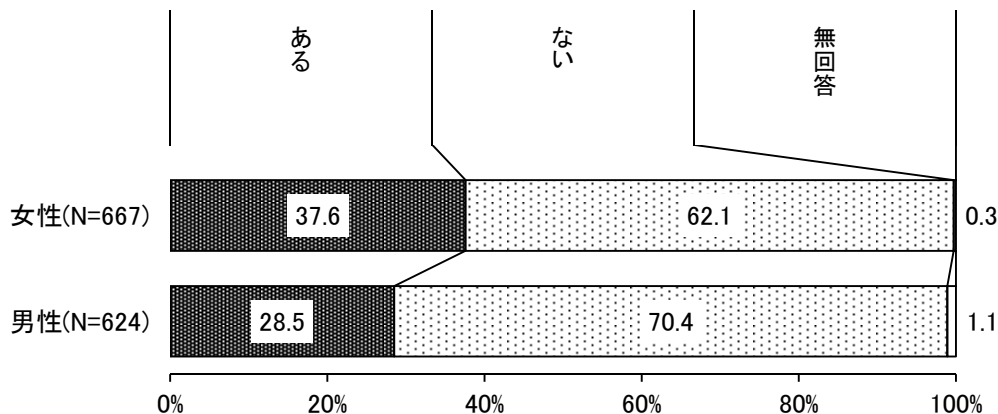
	全体	そう 思 う	そ う 思 う い え ば	ど ち ら か と 思 わ な い	ど ち ら か と い え ば そ う 思 わ な い	そう 思 わ な い	無 回 答
全体	1293	7.8	27.2	27.8	35.4	1.8	
女性	賛成グループ	176	9.1	35.8	29.0	25.0	1.1
	反対グループ	489	5.1	23.1	32.7	38.0	1.0
男性	算定グループ	170	18.2	35.9	20.0	25.3	0.6
	反対グループ	442	6.6	26.0	25.1	41.6	0.7

「相手が同意しない限り別れることはできないと思う」の賛否別でみると、反対グループの方が『そう思わない』の割合が高く、女性で16.7ポイント、男性で21.4ポイントの差がある。

### 問3 「デートDV」について

(1) あなたは、「デートDV」という言葉を聞いたことがありますか。

図3-1 「デートDV」という言葉の認知



■女性の4割弱、男性の3割弱が「デートDV」という言葉を聞いたことがある

「デートDV」という言葉を聞いたことがあるかたずねたところ、「ある」の割合は女性37.6%・男性28.5%となっており、約10ポイント、女性の方が男性よりも高くなっている。

#### 【性別・学年別】

表3-1 性別・学年別 「デートDV」という言葉の認知

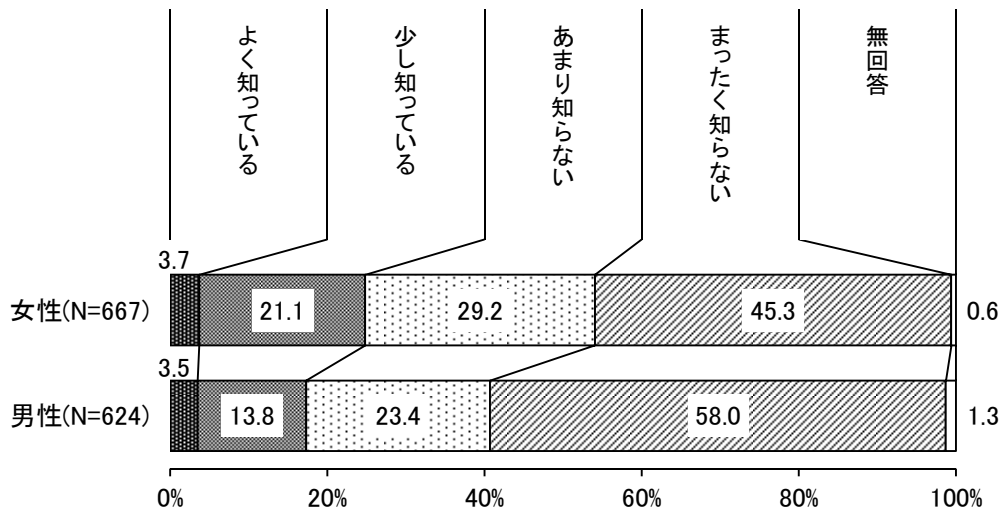
		全体	ある	ない	無回答
全体		1293	33.3	66.0	0.7
女性	1年生	263	36.1	63.9	-
	2年生	217	40.6	58.5	0.9
	3年生	187	36.4	63.6	-
男性	1年生	167	22.8	76.6	0.6
	2年生	136	17.6	79.4	2.9
	3年生	317	35.6	63.7	0.6

性別・学年別でみると、男女を通じて、女性の2年生で「ある」の割合が最も高く、40.6%である。

男性の場合、3年生で「ある」の割合が最も高く35.6%である。

(2) あなたは、「デートDV」を知っていますか。

図3-2 「デートDV」の認知度



■ 「デートDV」を「よく知っている」割合は男女ともに5%未満

「デートDV」について知っているかたずねたところ、男女とも「まったく知らない」の割合が最も高く、女性 45.3%・男性 58.0%、次いで「あまり知らない」女性 29.2%・男性 23.4%、「少し知っている」女性 21.1%・男性 13.8%と続いている。

『知っている』（「よく知っている」と「少し知っている」の合計）と回答した割合は女性 24.8%・男性 17.3%で、女性の方が 7.5 ポイント高い。

【性別・学年別】

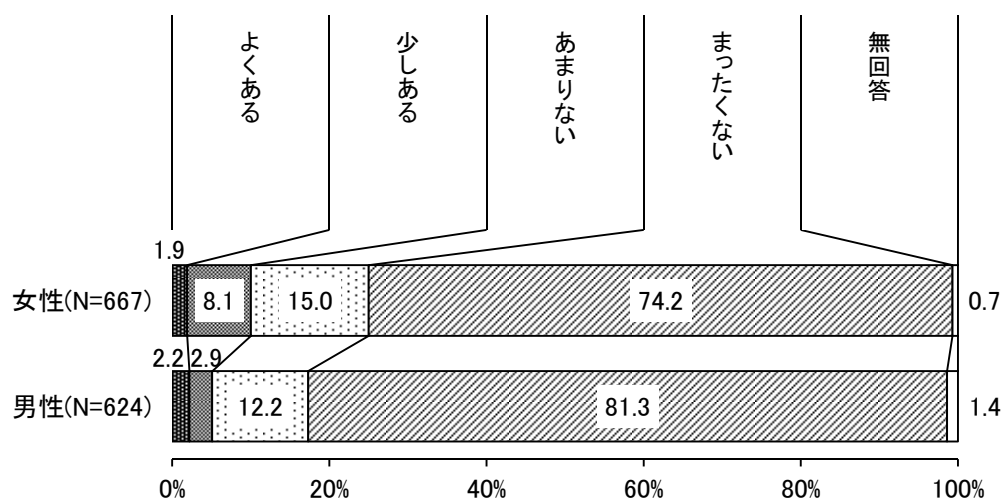
表3-2 性別・学年別 「デートDV」の認知度

		全体	よく知っている	少し知っている	あまり知らない	まったく知らない	無回答
全体		1293	3.6	17.6	26.5	51.4	0.9
女性	1年生	263	3.0	22.8	29.3	44.9	-
	2年生	217	5.1	16.6	30.4	47.0	0.9
	3年生	187	3.2	24.1	27.8	43.9	1.1
男性	1年生	167	2.4	6.6	23.4	66.5	1.2
	2年生	136	1.5	7.4	24.3	64.0	2.9
	3年生	317	5.0	19.6	23.3	51.4	0.6

性別・学年別でみると、女性の場合『知っている』と回答した割合が各学年ともに 20%を超えているのに対して、男性の場合は、1年生・2年生では 10%以下にとどまっている。

(3) あなたは、身近で「デートDV」を見たり聞いたりしたことがありますか。

図3-3 「デートDV」の見聞きの経験



■ 「デートDV」を身近で見聞きしたことがある男女は、5～10%

身近で「デートDV」を見たり聞いたりしたことがあるかたずねたところ、男女とも「まったくなく」が最も高く、女性74.2%・男性81.3%、次いで「あまりない」が女性15.0%・男性12.2%、「少しある」が女性8.1%・男性2.9%と続いている。

『ある』（「よくある」と「少しある」の合計）と回答した割合は女性10.0%・男性5.1%で、女性の方が4.9ポイント高い。

【性別・学年別】

表3-3 性別・学年別「デートDV」の見聞きの経験

		全体	よくある	少しある	あまりない	まったくなく	無回答
全体		1293	2.1	5.6	13.8	77.5	1.1
女性	1年生	263	1.9	8.0	15.2	74.9	-
	2年生	217	2.3	9.2	13.8	72.8	1.8
	3年生	187	1.6	7.0	16.0	74.9	0.5
男性	1年生	167	1.2	3.6	10.8	82.6	1.8
	2年生	136	1.5	2.2	11.8	80.9	3.7
	3年生	317	3.2	2.5	12.6	81.4	0.3

性別・学年別でみると、女性の場合、2年生で『ある』が高く1割を超えている。

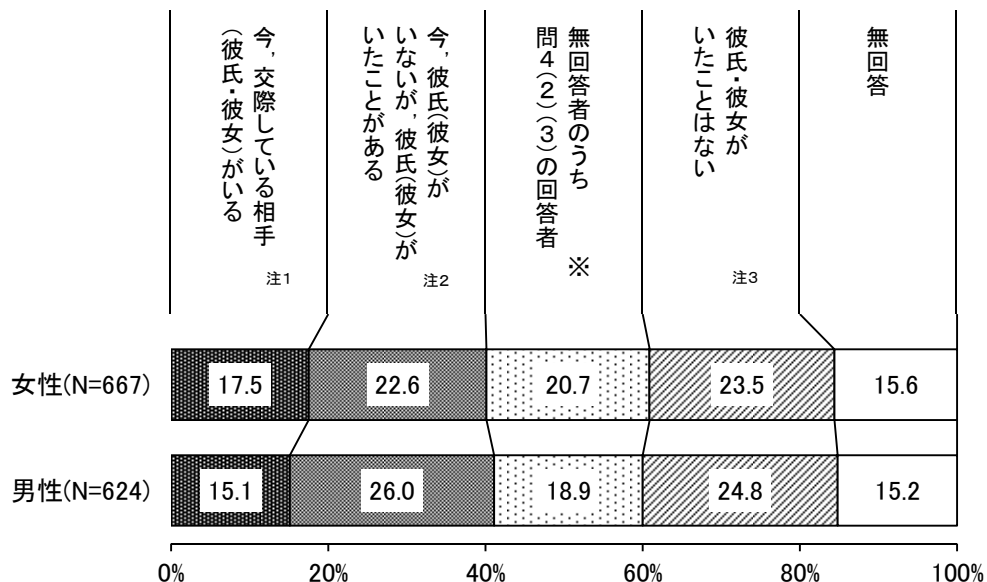
男性の3年生で「よくある」が男女を通じて最も高くなっている。



## 問4 交際相手との関係について

### (1) あなたは、交際している相手（彼氏・彼女）がいますか？

図4-1 交際相手の有無



注1) 一部の調査協力校では「今、交際している相手がいる」として質問した。

注2) 一部の調査協力校では「今、交際している相手がないが、以前いたことがある」として質問した。

注3) 一部の調査協力校では「交際相手がいたことはない」として質問した。

#### ■回答者の約6割が交際中もしくは交際経験あり

交際している相手がいるかたずねたところ、女性では「彼氏・彼女がいたことはない」が最も高く23.5%、次いで「今、彼氏(彼女)がいないが、彼氏(彼女)がいたことがある」22.6%、「無回答者のうち問4(2)(3)の回答者」(彼氏・彼女がいる・いたと思われる回答者)20.7%と続いている。

男性では、「今、彼氏(彼女)がいないが、彼氏(彼女)がいたことがある」が最も高く26.0%、次いで「彼氏・彼女がいたことはない」24.8%、「無回答者のうち問4(2)(3)の回答者」18.9%と続いている。

※問4(1)の選択肢は、「1. 今、交際している相手(彼氏・彼女)がいる」「2. 今、彼氏(彼女)がいないが、彼氏(彼女)がいたことがある」「3. 彼氏・彼女がいたことはない」の3つであり、問4(1)で1または2と回答した人に問4(2)(3)の回答を求める設問となっている。調査票の記入において、問4(2)(3)に回答していながら問4(1)に無回答の人が多かった。これらの人は問4(1)の記入漏れと判断して、問4(2)(3)の回答を生かすこととした。ただし、問4(1)の回答が、1か2かの判別はできないため、ここでは「無回答者のうち問4(2)(3)の回答者」として集計を行った。

【性別・学年別】

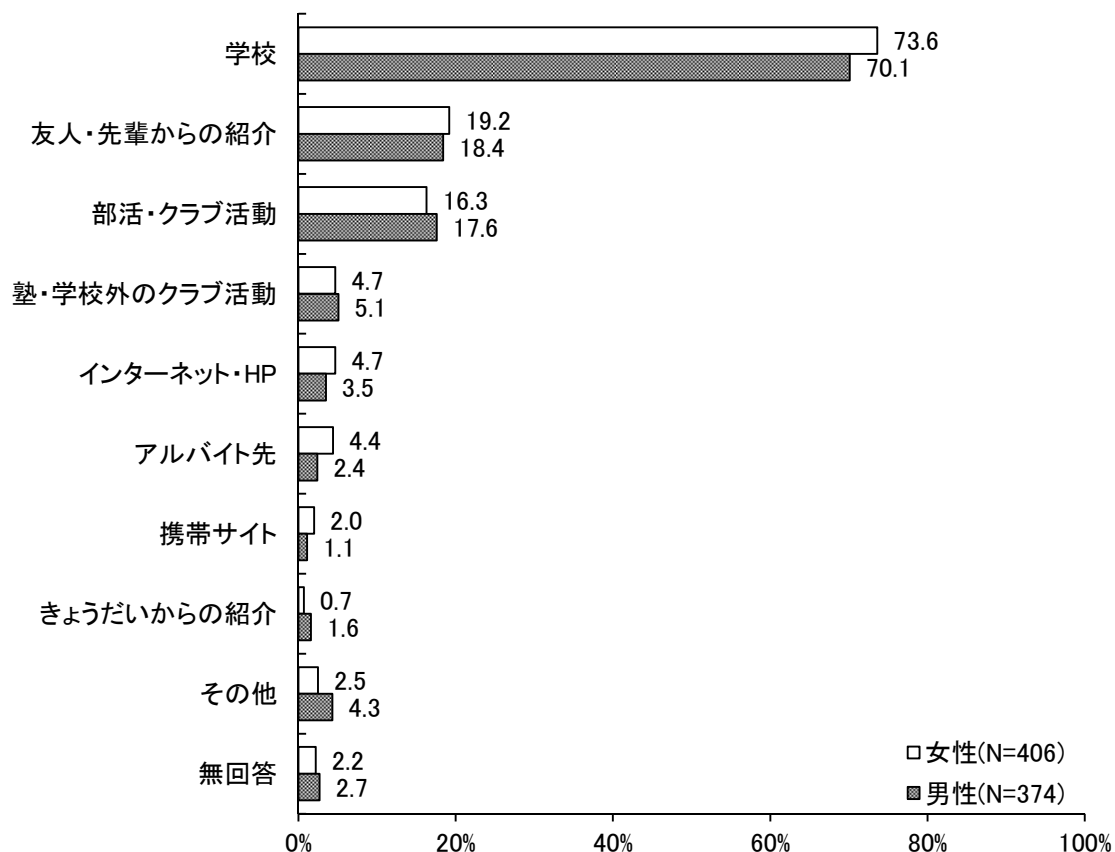
表 4 - 1 性別・学年別 交際相手の有無

	全体	今、交際している相手 (彼氏・彼女)がいる	今、彼氏(彼女)が いないが、彼氏(彼女)が いたことがある	無回答者のうち 問4(2)(3)の 回答者	彼氏・彼女が いたことはない	無回答	
全体	1293	16.4	24.2	19.8	24.1	15.5	
女性	1年生	263	15.2	23.6	22.4	20.9	17.9
	2年生	217	17.1	23.5	19.4	25.3	14.7
	3年生	187	21.4	20.3	19.8	25.1	13.4
男性	1年生	167	9.0	25.7	24.0	24.0	17.4
	2年生	136	16.9	22.8	23.5	22.8	14.0
	3年生	317	17.7	26.5	14.5	26.5	14.8

性別・学年別にみると、若干ではあるが、男女ともに学年が高いほど「今、交際している相手(彼氏・彼女)がいる」割合が高くなっている。

(2) (1)で「交際相手(彼氏・彼女)がいる」「いたことがある」と答えた人への質問です。交際相手と出会ったきっかけを教えてください。(〇はいくつでも)

図4-2 交際相手と出会ったきっかけ

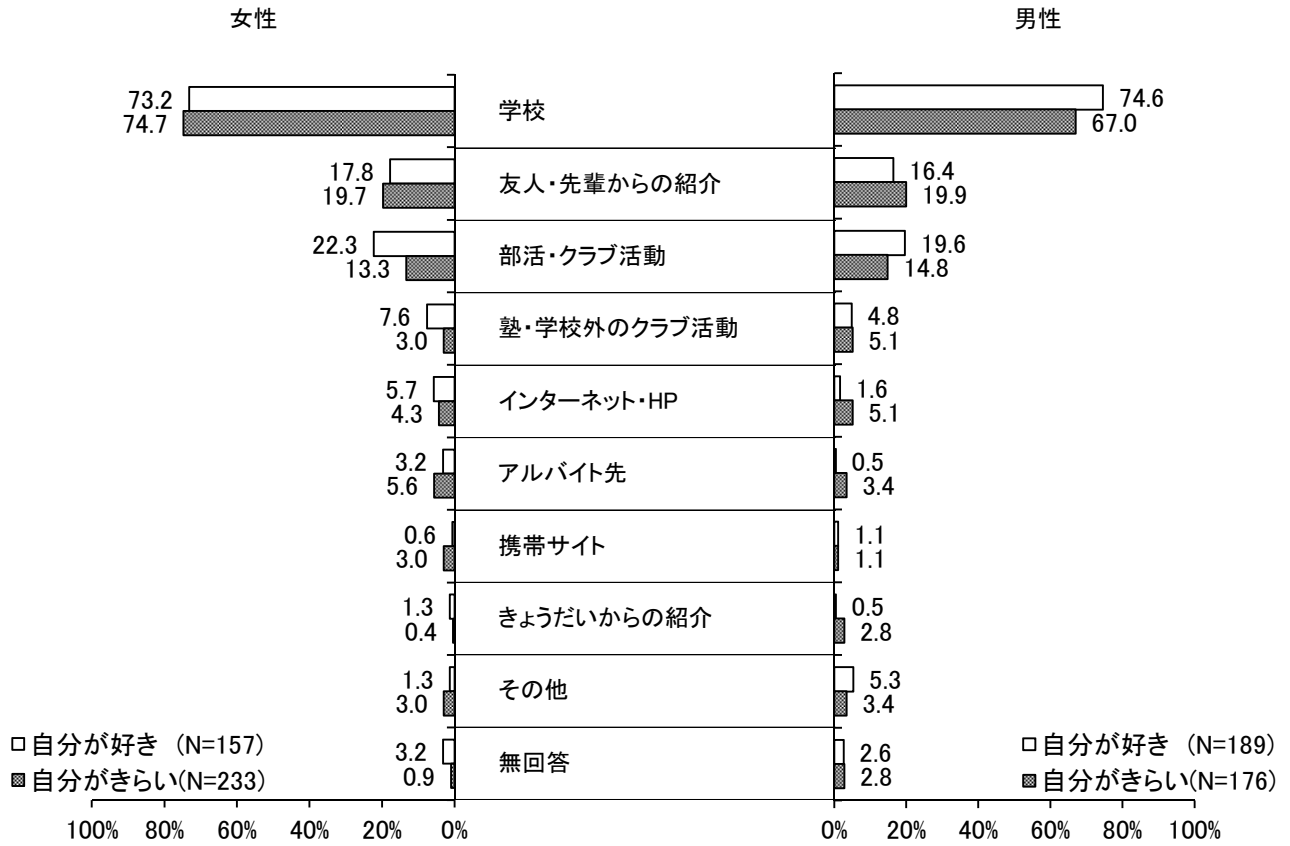


■交際相手と出会ったきっかけは「学校」が約7割

交際相手と出会ったきっかけについてたずねたところ、「学校」の割合が際立って高く女性73.6%・男性70.1%。次いで、「友人・先輩からの紹介」「部活・クラブ活動」が1割台後半で、他の項目は一けた台にとどまっている。

【性別・自己肯定感別】

図 4-3 性別・自己肯定感別 交際相手と出会ったきっかけ



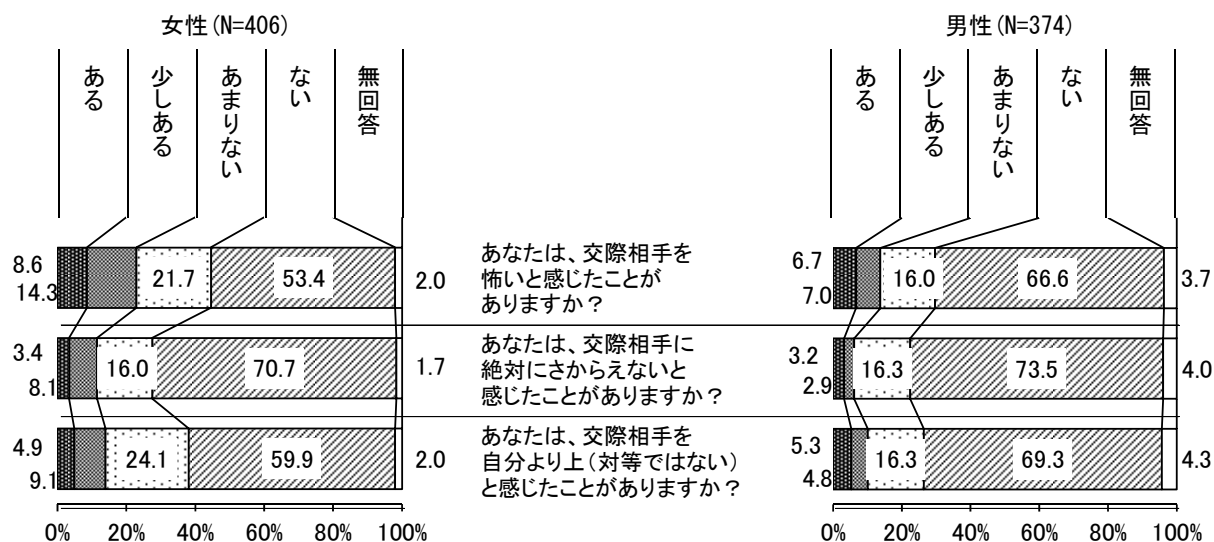
自己肯定感別にみると、女性の場合は、「自己喜欢」グループでは「部活・クラブ活動」「塾・学校外のクラブ活動」の割合が「自分がきれい」グループに比べて高くなっている。

男性の場合は、「学校」「部活・クラブ活動」で、「自己喜欢」グループの方が「自分がきれい」グループに比べて高くなっている。

(3) 次の質問項目について、当てはまるものを1つ選んで○をつけてください。

- 1 あなたは、交際相手を怖いと感じたことがありますか？
- 2 あなたは、交際相手に絶対にさからえないと感じたことはありますか？
- 3 あなたは、交際相手を自分より上（対等ではない）と感じたことはありますか？

図4-4 交際相手への恐怖感などについて



■交際相手を怖いと感じたことがある女性は2割強

「交際相手を怖い」と感じたことの有無についてたずねたところ、『ある』（「ある」と「少しある」の合計）と回答した割合は、女性 22.9%で5人に1人以上である。男性では 13.7%であり、9.2ポイントほど女性の割合が高い。

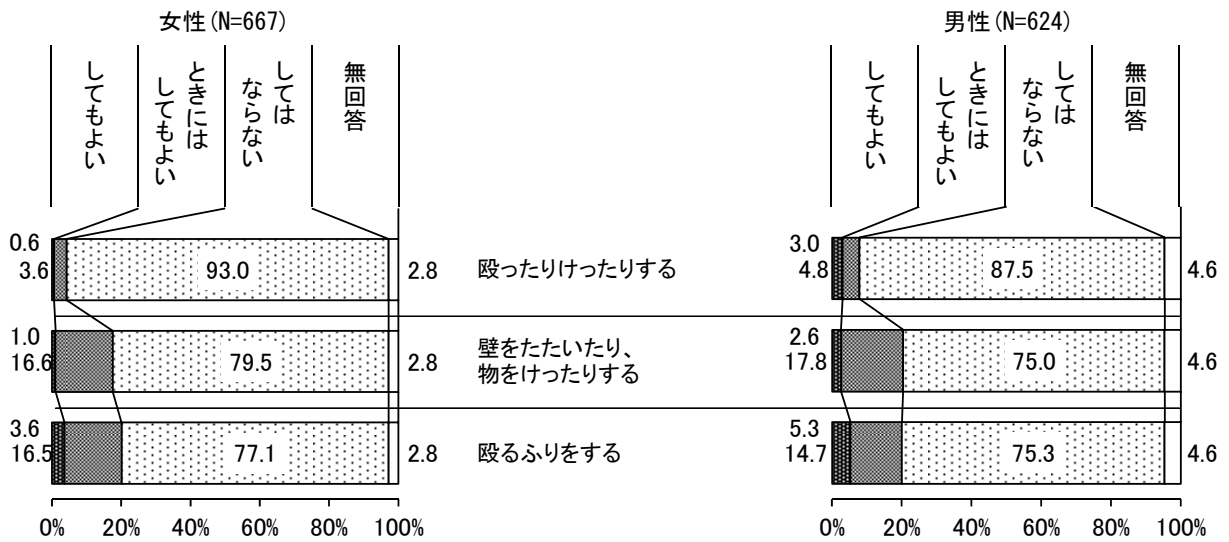
「交際相手に絶対にさからえない」と感じたことの有無では、『ある』の割合は、女性 11.5%・男性 6.1%で、女性の方が 5.4ポイント高い。

「交際相手を自分より上（対等ではない）」と感じた割合は、女性 14.0%・男性 10.1%で、女性の方が 3.9ポイント高く、3項目とも女性の割合が高くなっている。

問5 交際相手にしてもよいと思うもの、思わないものについて

(1) 交際相手にしてもよいと思うもの、思わないものを選び、表に直接○をつけてください。

図5-1 身体的なこと



■男性の3.0%は「殴ったりけったりする」を肯定

身体的なことでは、「殴ったりけったりする」は女性 93.0%・男性 87.5%が「してはならない」と答えているが、直接的な身体的暴力でさえも、女性の4.2%・男性の7.8%が『してもよい』（「してもよい」と「ときにはしてもよい」の合計）と回答している。

一方、男女ともに、「壁をたたいたり、物をけったりする」や「殴るふりをする」を『してもよい』とする割合は20%前後である。

身体的な暴力については、女性の方が男性より「してはならない」の割合が若干高くなっている。

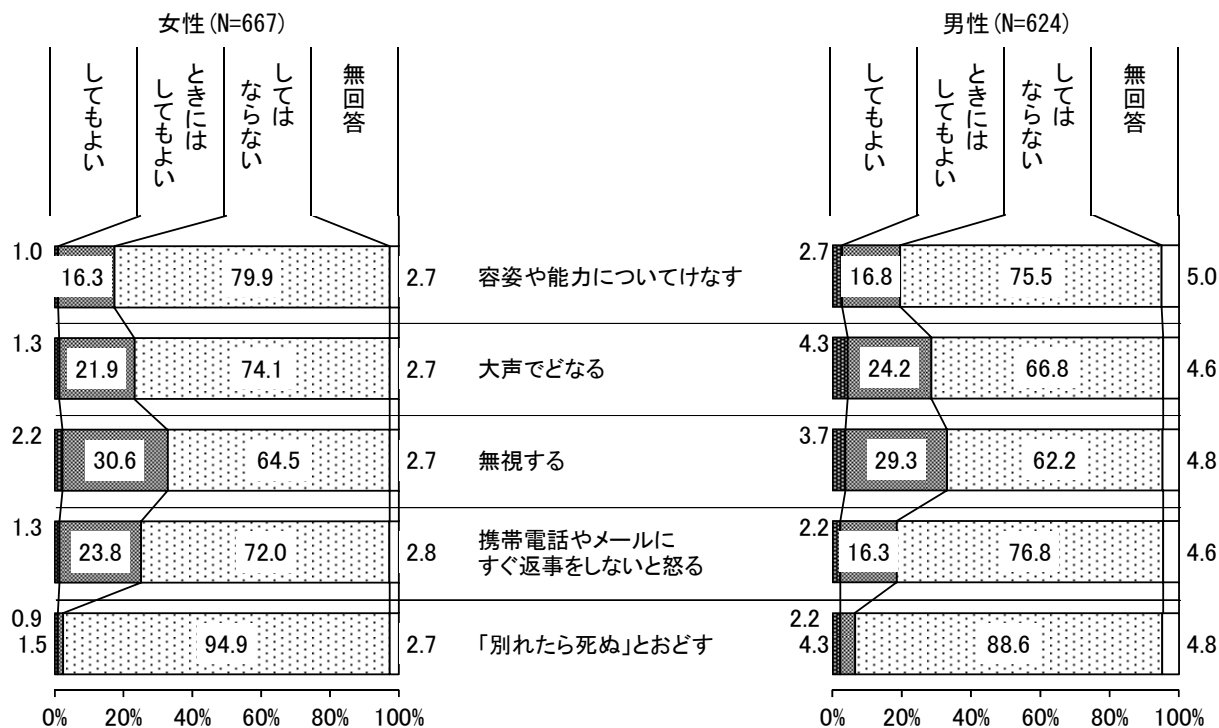
【性別・自己肯定感別】

表5-1 性別・自己肯定感別 『してもよい』【身体的なこと】

		全体	殴ったりけったりする	壁をたたいたり、物をけったりする	殴るふりをする
全体		1293	6.1	19.0	20.1
女性	自分が好き	254	5.9	19.7	21.6
	自分がきらい	387	3.1	16.3	19.4
男性	自分が好き	313	7.0	20.1	21.5
	自分がきらい	293	8.5	20.1	18.1

女性では、すべての項目において「自分が好き」グループの方が「自分をきらい」グループよりも『してもよい』割合が若干高い。

図5-2 精神的なこと



■男女の3人に1人が「無視する」を『してもよい』と回答

精神的なことでは、『別れたら死ぬ』とおどすで「してはならない」の割合が男女ともに高く、女性 94.9%・男性 88.6%である。

一方、男女ともに「無視する」で、女性 32.8%・男性 33.0%と3人に1人が『してもよい』としている。また、男性では、「大声でどなる」では28.5%が『してもよい』とし、女性では、「携帯電話やメールにすぐ返事をしないと怒る」25.1%、「大声でどなる」23.2%が『してもよい』と回答している。

「携帯電話やメールにすぐ返事をしないと怒る」を除いた項目で、女性の方が男性より「してはならない」の割合が高くなっている。

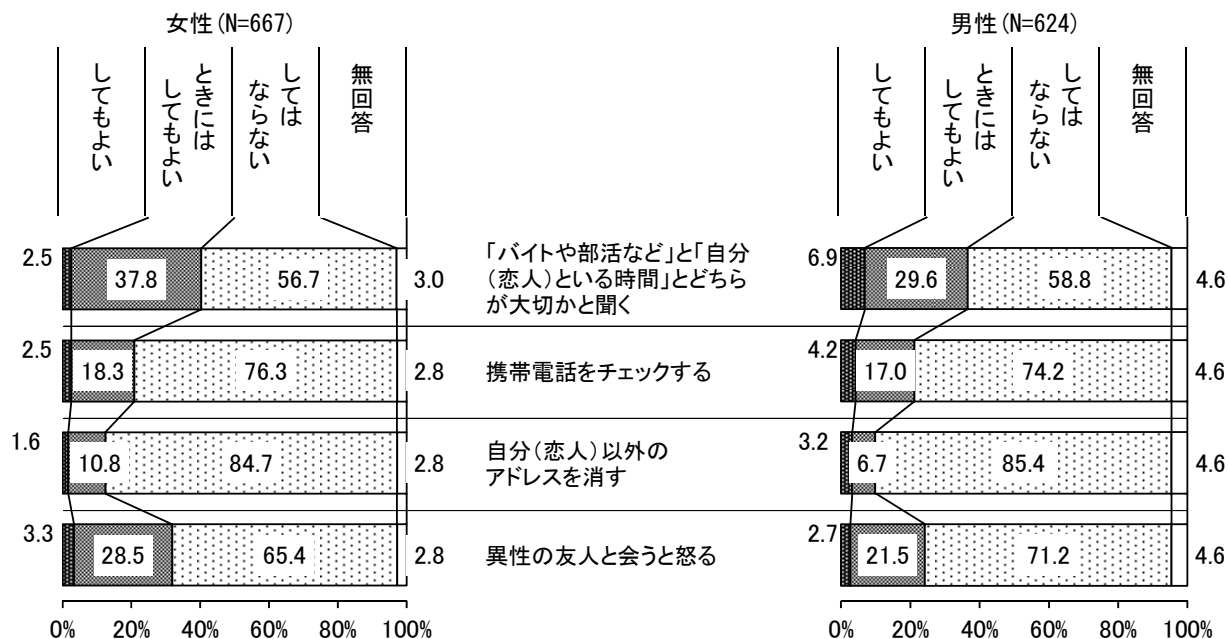
【性別・自己肯定感別】

表5-2 性別・自己肯定感別 『してもよい』【精神的なこと】

		全体	容姿や能力についてけなす	大声でどなる	無視する	携帯電話やメールにすぐ返事をしないと怒る	「別れたら死ぬ」とおどす
全体		1293	18.6	25.8	33.0	22.1	4.4
女性	自分が好き	254	20.9	23.6	32.3	27.2	3.6
	自分がきらい	387	16.0	24.1	33.3	24.0	1.8
男性	自分が好き	313	20.2	29.7	32.6	20.8	7.3
	自分がきらい	293	18.1	26.6	33.2	15.7	5.1

女性では、「容姿や能力についてけなす」で「自分が好き」の方が「自分がきらい」よりも4.9ポイント高くなっている。

図5-3 社会的なこと



■ 『「バイトや部活など」と『自分(恋人)という時間』とどちらが大切かと聞く』には女性の4割が『してもよい』と回答

社会的なことでは、男女ともに「自分(恋人)以外のアドレスを消す」の「してはならない」の割合が高く、女性 84.7%・男性 85.4%で 80%を超えている。

一方、『「バイトや部活など」と『自分(恋人)という時間』とどちらが大切かと聞く』(女性 40.3%・男性 36.5%)、「異性の友人と会うと怒る」(女性 31.8%・男性 24.2%)では、『してもよい』の割合が高くなっている。

「携帯電話をチェックする」以外の項目で、「してはならない」の割合が若干男性の方が高く、「異性の友人と会うと怒る」では女性より男性が 5.8 ポイントほど高くなっている。

【性別・自己肯定感別】

表5-3 性別・自己肯定感別 『してもよい』【社会的なこと】

	全体	「バイトや部活など」と「自分(恋人)という時間」とどちらが大切かと聞く	携帯電話をチェックする	自分(恋人)以外のアドレスを消す	異性の友人と会うと怒る	
全体	1293	38.6	21.0	11.3	28.1	
女性	自分が好き	45.3	24.5	12.6	33.4	
	自分がきらい	387	37.2	19.1	12.7	30.5
男性	自分が好き	313	39.9	23.3	10.9	24.9
	自分がきらい	293	32.4	18.5	8.9	23.5

男女ともに、『「バイトや部活など」と『自分(恋人)という時間』とどちらが大切かと聞く』「携帯電話をチェックする」で「自分が好き」グループの割合が若干高い。



**【性別・性別役割分担意識別】**

「肯定グループ」＝「(男性は仕事,) 女性は子育てを優先させるべきだと思う」について「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」と回答したグループ

「否定グループ」＝「(男性は仕事,) 女性は子育てを優先させるべきだと思う」について「そう思わない」と「どちらかといえばそう思わない」と回答したグループ

**表 5-4 性別・性別役割分担意識別 「異性の友人と会うと怒る」**

		全体	してもよい	ときにはしてもよい	してはならない	無回答
全体		1293	3.0	25.1	68.1	3.7
女性	肯定グループ	305	3.0	26.6	67.5	3.0
	否定グループ	359	3.6	30.1	63.5	2.8
男性	肯定グループ	300	4.0	24.3	65.7	6.0
	否定グループ	316	1.6	18.7	77.8	1.9

「してはならない」の割合で、男性では性別役割分担意識の否定グループの方が 12.1 ポイント高くなっている。一方、女性では肯定グループの方が 4.0 ポイント高くなっている。

**【性別・2人の間での秘密や隠し事の賛否別】**

「賛成グループ」＝「付き合っている2人の中での秘密や隠し事をするのはいけないと思う」について「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」と回答したグループ

「反対グループ」＝「付き合っている2人の中での秘密や隠し事をするのはいけないと思う」について「そう思わない」と「どちらかといえばそう思わない」と回答したグループ

**表 5-5 性別・2人の中での秘密や隠し事の賛否別 「異性の友人と会うと怒る」**

		全体	してもよい	ときにはしてもよい	してはならない	無回答
全体		1293	3.0	25.1	68.1	3.7
女性	賛成グループ	233	5.6	34.8	57.1	2.6
	反対グループ	434	2.1	25.1	69.8	3.0
男性	賛成グループ	249	5.6	25.7	63.9	4.8
	反対グループ	367	0.8	18.8	77.1	3.3

「付き合っている2人の中に、秘密や隠し事をしてはいけないと思う」の賛否別でみると、男女ともに反対グループの方が賛成グループよりも「してはならない」の割合が高く、女性では 12.7 ポイント、男性では 13.2 ポイントの差がある。

【性別・別れに同意が必要の賛否別】

「賛成グループ」＝「相手が同意しない限り別れることはできないと思う」について「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」と回答したグループ

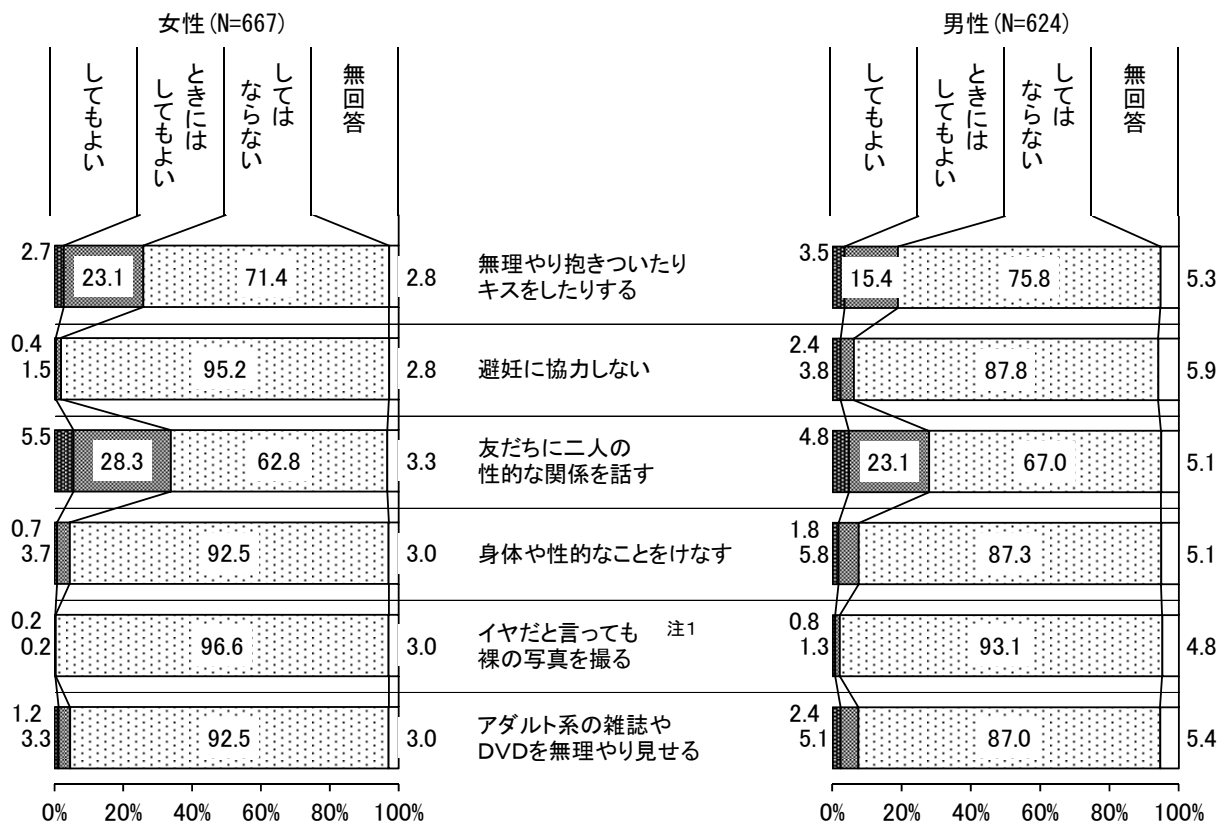
「反対グループ」＝「相手が同意しない限り別れることはできないと思う」について「そう思わない」と「どちらかといえばそう思わない」と回答したグループ

表5-6 性別・別れに同意が必要の賛否別 「異性の友人と会うと怒る」

		全体	してもよい	するときにはしてもよい	してはならない	無回答
全体		1293	3.0	25.1	68.1	3.7
女性	賛成グループ	176	5.1	32.4	60.8	1.7
	反対グループ	489	2.2	27.2	67.3	3.3
男性	賛成グループ	170	6.5	25.3	66.5	1.8
	反対グループ	442	1.4	19.9	74.2	4.5

「相手が同意しない限り別れることはできないと思う」の賛否別でみると、男女ともに反対グループの方が「してはならない」の割合がやや高く、女性では6.5ポイント、男性では7.7ポイントの差がある。

図5-4 性的なこと



注1) 一部の調査協力校では設問を設けていないため回答者数が異なる (女性: N=465, 男性: N=375)。

■ 「友だちに二人の性的な関係を話す」は男女で3割前後が『してもよい』

性的なことでは、「イヤだと言っても裸の写真を撮る」で「してはならない」の割合が高く、女性96.6%・男性93.1%である。

女性では、「避妊に協力しない」「身体や性的なことをけなす」「イヤだと言っても裸の写真を撮る」「アダルト系の雑誌やDVDを無理やり見せる」の「してはならない」の割合が90%を超え、いずれも男性より高くなっている。

一方、『してもよい』の割合が高いのは、男女ともに「友だちに二人の性的な関係を話す」で女性33.8%・男性27.9%、「無理やり抱きついたりキスをしたりする」では女性25.8%・男性18.9%であるものの、どちらも女性の割合の方が高くなっている。

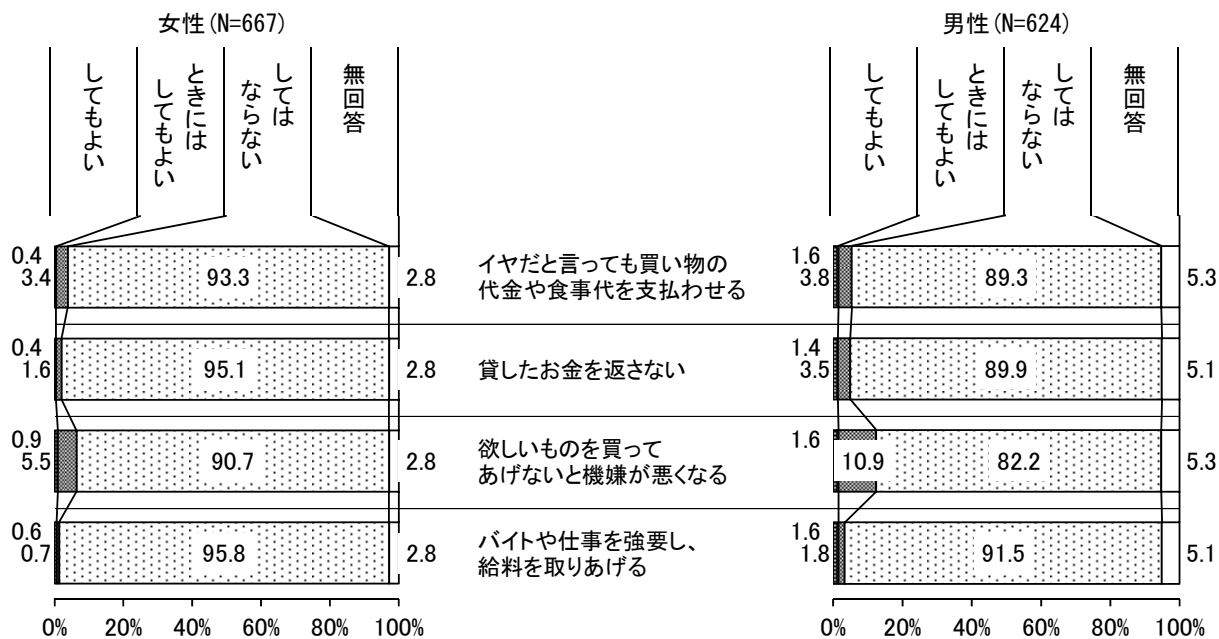
【性別・自己肯定感別】

表5-7 性別・自己肯定感別 『してもよい』【性的なこと】

	全体	無理やり抱き ついたりキス したりする	避妊に協力しない	友だちに二人の 性的な関係を話す	身体や性的な ことをけなす	イヤだと言っても 裸の写真を撮る	アダルト系の 雑誌やDVDを 無理やり見せる	
全体	1293	22.6	4.1	31.0	6.0	1.2	6.1	
女性	自分が好き	254	30.7	2.8	37.8	5.5	-	6.7
	自分がきらい	387	23.5	1.6	31.8	4.2	0.8	3.4
男性	自分が好き	313	23.0	7.1	31.0	8.9	2.7	8.3
	自分がきらい	293	14.7	5.1	25.3	5.8	1.7	6.5

男女ともに、女性の「イヤだと言っても裸の写真を撮る」以外の項目で、「自分が好き」グループの割合が「自分がきらい」グループの割合を上回っており、「無理やり抱きついたりキスをしたたりする」「友だちに二人の性的な関係を話す」においてはその差が大きくなっている。

図5-5 経済的なこと



■ 「してもよい」ことは男女ともすべて2%未満

経済的なことでは、「バイトや仕事を強要し、給料を取りあげる」で「してはならない」の割合が男女ともに90%を超えている（女性95.8%・男性91.5%）。

女性では全ての項目で「してはならない」が90%を超え、男性では「バイトや仕事を強要し、給料を取りあげる」では90%を超えているものの、他の項目では80%台である。

男性の「欲しいものを買ってあげないと機嫌が悪くなる」では、12.5%が『してもよい』とし、高い割合となっている。

【性別・自己肯定感別】

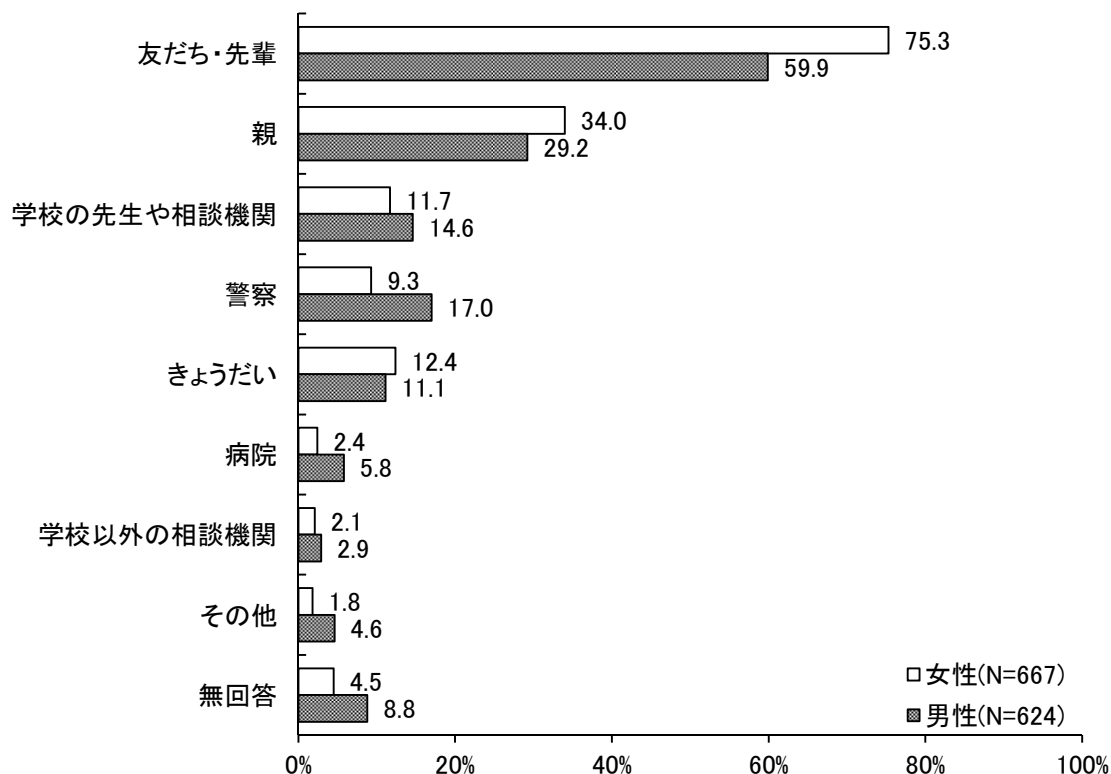
表5-8 性別・自己肯定感別【経済的なこと】

	全体	イヤだと言っても 買い物の代金や 食事代を支払わせる	貸したお金を 返さない	欲しいものを買 ってあげないと 機嫌が悪くなる	バイトや仕事を 強要し、給料を 取りあげる	
全体	1293	4.7	3.5	9.4	2.4	
女性	自分が好き	254	5.9	4.0	6.7	2.0
	自分がきらい	387	2.8	1.0	6.7	1.0
男性	自分が好き	313	5.4	5.8	13.1	3.2
	自分がきらい	293	5.2	3.4	11.6	3.1

女性の場合、「イヤだと言っても買い物の代金や食事代を支払わせる」「貸したお金を返さない」で「自分が好き」グループの割合が「自分がきらい」グループより若干高い。

(2) あなたが、もしデートDVの被害に遭ったら、だれ(どこ)に相談すると思いますか？  
(〇はいくつでも)

図5-6 デートDVの被害に遭った場合の相談先



■男女とも「友だち・先輩」に相談するがトップ

デートDVの被害に遭った時の相談先についてたずねたところ、男女ともに、「友だち・先輩」の割合が最も高く、女性 75.3%・男性 59.9%で、次いで、「親」が女性 34.0%・男性 29.2%となっている。

「学校の先生や相談機関」「警察」「病院」「学校以外の相談機関」への相談はあまり高くない。

男女で比較すると、「友だち・先輩」は 15.4 ポイント女性の方が高く、「警察」は 7.7 ポイント男性の方が高くなっている。

【性別・学年別】

表5-9 性別・学年別 デートDVの被害に遭った場合の相談先

	全体	先輩・友だち	親	学校や相談機関の先生	警察	きょうだい	病院	相談機関	学校以外の	その他	無回答
全体	1293	67.9	31.7	13.1	13.0	11.8	4.0	2.5	3.2	6.6	
女性	1年生	263	70.0	33.5	15.6	6.1	11.0	3.4	3.0	1.5	6.5
	2年生	217	78.3	34.6	10.6	12.0	11.5	1.4	2.3	1.8	3.7
	3年生	187	79.1	34.2	7.5	10.7	15.5	2.1	0.5	2.1	2.7
男性	1年生	167	55.7	31.7	19.2	18.0	15.6	4.2	1.8	4.8	9.0
	2年生	136	58.1	26.5	13.2	12.5	9.6	5.9	2.2	8.1	8.8
	3年生	317	63.1	28.7	12.6	18.6	9.5	6.6	3.8	3.2	8.5

性別・学年別でみると、「友だち・先輩」では、男女ともに学年が高いほどその割合も高くなっており、特に女性の3年生では79.1%にのぼる。

その逆に、「学校の先生や相談機関」では、学年が低いほどその割合が高くなっている。

男性の1年生では、「学校の先生や相談機関」「きょうだい」の割合が男女の学年別中最も高くなっている。

【性別・自己肯定感別】

表5-10 性別・自己肯定感別 デートDVの被害に遭った場合の相談先

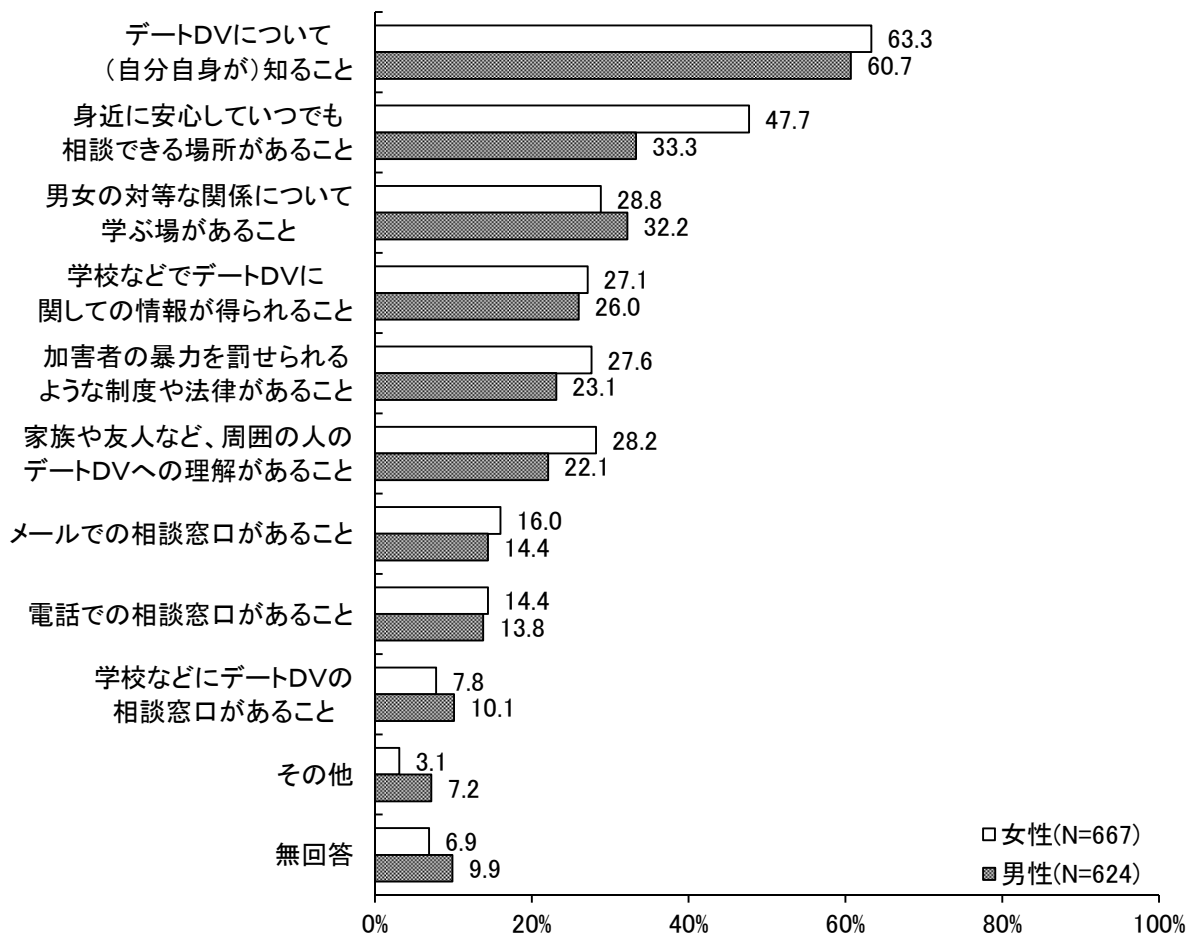
	全体	先輩・友だち	親	学校や相談機関の先生	警察	きょうだい	病院	相談機関	学校以外の	その他	無回答
全体	1293	67.9	31.7	13.1	13.0	11.8	4.0	2.5	3.2	6.6	
女性	自分が好き	254	77.6	41.7	14.2	10.6	13.8	1.6	2.4	0.4	4.3
	自分がきらい	387	73.4	29.5	10.3	8.5	12.1	3.1	2.1	2.8	4.4
男性	自分が好き	313	63.9	28.4	11.5	16.6	9.9	4.8	2.9	4.2	6.7
	自分がきらい	293	56.7	30.0	18.1	17.7	12.3	7.2	2.7	5.1	9.9

女性の場合、「自分が好き」グループでは「親」の割合が41.7%で、「自分がきらい」グループより12.2ポイント高くなっている。「友だち・先輩」「学校の先生や相談機関」の割合も若干高い。

男性の場合は、「友だち・先輩」と「学校以外の相談機関」では「自分が好き」グループが「自分がきらい」グループよりも若干高くなっているものの、他の項目では「自分が好き」グループよりも「自分がきらい」グループの方が高くなっている。

(3) デートDVをなくすためには、どうしたらよいと思いますか。あなたの考えを教えてください。(〇はいくつでも)

図5-7 デートDVをなくすための方法



■「デートDVについて(自分自身が)知ること」がトップで6割強

デートDVをなくすための方法についてたずねたところ、男女ともに「デートDVについて(自分自身が)知ること」の割合が最も高く、女性63.3%・男性60.7%である。次いで「身近に安心していつでも相談できる場所があること」が女性47.7%・男性33.3%、「男女の対等な関係について学ぶ場があること」が女性28.8%・男性32.2%で続いている。

「身近に安心していつでも相談できる場所があること」では、女性の方が14.4ポイント高くなっている。



【性別・学年別】

表5-11 性別・学年別 デートDVをなくすための方法

	全体	デートDVについて (自分自身が) 知ること	身近に安心していつでも 相談できる場所があること	学ぶ場があること	男女の対等な関係について	学校などでデートDVに 関しての情報が得られること	加害者の暴力を罰せられる ような制度や法律があること	家族や友人など、周囲の人の デートDVへの理解があること	メールでの相談窓口があること	電話での相談窓口があること	学校などにデートDVの 相談窓口があること	その他	無回答
全体	1293	62.0	40.8	30.4	26.5	25.4	25.2	15.2	14.1	8.9	5.1	8.4	
女性	1年生	263	58.6	44.1	28.5	27.8	22.8	27.4	16.0	12.2	9.9	3.8	9.5
	2年生	217	66.8	49.3	27.6	24.0	28.1	27.2	13.4	11.5	8.3	3.7	6.0
	3年生	187	65.8	50.8	30.5	29.9	33.7	30.5	19.3	20.9	4.3	1.6	4.3
男性	1年生	167	53.9	38.3	28.1	25.7	21.6	20.4	13.2	10.8	10.2	6.0	10.2
	2年生	136	63.2	31.6	27.9	26.5	19.9	22.8	11.8	13.2	10.3	10.3	10.3
	3年生	317	63.1	31.5	36.3	25.9	25.6	23.0	16.1	15.8	10.1	6.3	9.5

性別・学年別にみると、男女ともに3年生で回答割合が高い項目が多い。

女性の場合、「学校などにデートDVの相談窓口があること」を除く8項目で学年中で一番高い割合になっている。

男性の場合は、「男女の対等な関係について学ぶ場があること」「加害者の暴力を罰せられるような制度や法律があること」「家族や友人など、周囲の人のデートDVへの理解があること」「メールでの相談窓口があること」「電話での相談窓口があること」で学年中一番高い割合になっている。

## 4. 自由記述のまとめ

全 328 件の回答内容は以下の通りであった。(意見の詳細は抜粋している)

### 【デートDVという言葉の認知】(79 件)

自由意見	属性
「デートDV」という言葉を初めて聞きました。このような言葉が出来るということはそういうことが身近で起こっている可能性があること知り、こわくなりました。もし自分なら、正直相談には行けないと思います。他の人もそうかもしれないので、普段から友人とこのような話でも出来るような信頼関係を築くことも大切だと思いました。	女性 1 年生
DVの詳細やケースを教えていただきたい。	女性 1 年生
DVって怖い。	男性 1 年生
DVはヒドイと思った。	女性 1 年生
正直、DVの基準がわかりにくいです。	女性 3 年生

### 【デートDV, 暴力はNO】(47 件)

デートDVは良くない。	女性 3 年生
暴力はどんな理由でもしてはいけない。	女性 1 年生
DVがなくなってほしいと思う。	女性 1 年生
デートDVはいけないことだと思った。絶対にやらないと誓う。	女性 1 年生
デートDVは、してもされてもいけないと改めて思いました。	男性 1 年生

### 【アンケート調査の感想】(35 件)

人はみんな同じことを思うわけじゃないし、人それぞれ答えはあるから、考え深いと思った。	女性 1 年生
人との関係は、難しいんじゃないかと思いました。	女性 1 年生
何も思わない。実際DVなんてなくならんやろ。	女性 1 年生
DVをした後の男は異常なぐらい優しいと聞くけど、優しさでは解決出来ないと思う。	女性 1 年生
相手のことを思っているのになんで暴力をふるうのか疑問に思いました。	女性 1 年生
付き合ったりしている人がいても、幸せなことばかりではないんだなと思った。	女性 1 年生
男女の間の問題はとても難しい。	女性 1 年生
デートDVは身近におこったこともないし、されたこともないので、全く、想像もできないし、まだ、リアリティーが自分の中にある。	女性 1 年生
周りの友人の支えは大事だと思います。	女性 1 年生
自分がそんな目にあうとは思っていないので、そうなったら怖い。	女性 1 年生
質問に答えていく度に「えっ!こんな事する人がいるの?」という驚きがたくさんあった。特に相手に暴力をふるうなどというのは予想外だった。素直に信じられない。	男性 1 年生
デートDVという言葉を知ったので、びっくりしました。問題になるという事は、世の中にはたくさんデートDVをしている人がいるんだと感じました。	男性 1 年生
まず、交際しているのに、無理矢理とか主従関係が生まれるのは本当に意味が分からない。この世は腐ってる。	男性 1 年生
暴力をするなら付き合うなよ!!暴力をした時点で好きじゃないと思う。ばかばかしいと思った。	男性 1 年生

えげつない奴がこの世にはいるんやなーと思いました。	男性1年生
こんな話を今知ったので驚いた。	男性1年生
相手のことを考えられないと、それは恋とは言わない!	男性1年生
だいぶ迷う質問も多少あったけど、やっぱりどんな時でもすぐに手を上げたりしないで、しっかりと話し合うことが大切だと思う。	女性2年生
「なぐる」の程度は分からないけど軽く笑いながらふれ合い程度にはしてもいいと思うし、自分も相手もお互いに「何言ってんのよ(笑)」とか「何してんのよ(笑)」とか言ってたたく(って言うほど強くないけど)ことがある。ガチのやつはダメやと思う。	女性2年生
あまり、自分には、考えたことがないテーマでした。	女性2年生
ふざけている時の軽い殴るふりは別に大丈夫だけど本気の顔してそんなふりされると怖い。4ページの一覧に載っていることが過激だと思った。こんなことが本当にあると思ったら怖い。	女性2年生
DVはきれいなので、できれば今後聞きたくもないし、もう考えたくないぐらいです。	女性2年生
自分は暴力とかをされたことがないのでわからないけど、やられてる人からしたらどんな気持ちなのかなと思った。	女性2年生
DVをする側にも問題あるけど、そうなったのは自分が相手に嫌がるようなことをしたからDVを受けるわけで、決してどちらかが悪いという判断はできないと思います。かといって、相手の言う通りに行動するのもダメだと思う。やっぱり話し合いが一番良いと思う。	女性2年生
男性の方が力も強いし、おどせば聞くように思われているけれど、同じ人間として平等であるべきだと思う。	女性2年生
付き合うならちゃんと、人は選んだ方がいいなと思った。	女性2年生
正直に答えました。男でも女でも怒られる方にも原因はあると思う。	男性2年生
男女の関係って大変で難しいですね。	男性2年生
DV受けたことないからまだよく分からない	女性3年生
人を思いやる心を大切にしていきたい。	女性3年生
DVはなくなりません。	男性3年生
性格の良い人と付き合いたいと思いました。	男性3年生
被害にあったときのため覚えておこうと思った。	男性3年生
身近にあると思う。	男性3年生
大切だと思う。	男性3年生

#### 【DV・デートDVについての啓発・学習・教育】(28件)

DVが私たちの身近なところで起きていることにもう少し理解をもって、正しい知識をもたないといけないと思いました。	女性1年生
デートDVは、きっと知らない人が多いと思うから、こういう取組は良いと思うから、もっとやってほしいと思う。	女性1年生
初めて知ったので、そういうことがあるんだなと思って周りの人にないか、注意していきたい。	女性1年生
今まであんまり考えたことなかったけど1/3の確率でデートDVを受けている人がいると知って、もしかしたら身近でそういう人がいるかもしれないので、もっと考えていこうと思いました。	女性1年生
デートDVをなくすためにも、幅広い人の理解が必要だと感じました。	男性1年生
まだこのことを知らない人もいるだろうからちゃんと皆に知ってもらいたい。これについても誰にも相談できない人もいるだろうから窓口などを作って相談できるようにする。	男性1年生

質問(あてはまるものに丸)に関しては、私的に聞かなくてもふつう全部あかんことやろうって思った。でも、こんなことをする人がいるんだということを初めて知るとすごくこわくなったし、今そんな目にあっている人たちをぜひ、自分も協力して助けたいと思いました。	男性1年生
デートDVという言葉を知ったので、学校から情報を出した方がいいと思う。	男性1年生
理想の男性というのは、家事ができる男性らしい。日本は昔、家事=女の仕事というものがあつたので、今でも多少残っているらしい。そういうのをなくしていきたい。	男性1年生
デートDVという言葉を知ったので、まだまだ知られていないと思います。このような教育が増えればいいと思いました。	女性2年生
軽い気持ちで行っていることが相手にとっては嫌なことになっているかもしれないという相手への思いやり、配慮が大切だと思うし、全ての人がこういった事を軽くとらえるのではなく、知識や意識をもつことが根本的な問題解決につながると思う。広く多くの人に知ってもらえればいいと思う。	男性2年生
知らない人も多いと思うし、学ぶ環境を提供すべき。	女性3年生

### 【アンケート調査について】(22件)

何故、デートDVについての説明がないのですか?私の他にも知らない人はいると思うので、ここに載せて欲しかったです。それから、アンケートは現状が分かるだけで、悩んでいる人の解決に繋がっているのかな…と少し疑問に思いました。	女性1年生
DVは絶対にいけない。けどこのアンケートはプライバシーのこと(DV関係なく)書くところ多い(笑)(笑)	女性1年生
デートDVについて、あつたことはないけれども、もし自分があつたときのことを考えたら改めて調べてみたい、知ることは大切だと思う。人を大切にする気持ちが何よりも必要だと思う。	女性1年生
本人が自覚できてないDVは発見が難しいのではないかと思います。あと、このアンケートに少し分かりにくい書き方をしている所がある。	女性2年生
強制して書く、アンケートではない。	女性2年生
変わった質問が多い。	女性2年生
こういうアンケートは、たまには大切だと感じます。	女性2年生
質問がリアルでびっくりした。	女性3年生
質問の内容がアバウト。	女性3年生
デートDVについての関心をもっと広がるべきだと思いました。	女性3年生
恋愛観、価値観に関する質問の8番で“教育”とはどういったものかによって、回答が変わると思いました。例えば、一般常識をよく知らない人に教えるのは良いと思う一方、自分の恋愛観を教えるのはだめだと思いました。もう少し質問を細かくして欲しいです。	女性3年生
とてもアンケートがわからないところもあつたので、苦労しました。	男性1年生
くだらない質問ばかりでつまんなかつた。	男性1年生
否定的なことが多かつた気がする。	男性1年生
気分が悪い。反吐が出るアンケートだつた。自分は望んでないのにアンケートをせまられた。	男性2年生
アンケートの取り方考えてください。	男性2年生
このアンケートはあまり意味がないと思う。	男性2年生
けっこうリアルな質問だつた。	男性3年生
よく分かつた。	男性3年生
すばらしいアンケートだつたと思います。	男性3年生

DVは減らすことはできないと思うし、このアンケートはムダ！！	男性3年生
当たり前のことが多く質問されている。	男性3年生

### 【アンケート調査で学んだこと】(18件)

「デートDV」のことを今日初めて知ったし、深く学びました。「DV」なら知ってたけど、デートDVのことはほとんど知らなかったです。深刻な問題だと思いました。	女性1年生
デートDVについて初めて聞いたから、良い学習をしたなと思った。	女性1年生
全く知らなかったです。DVというものは知っていましたが…。まだ交際した経験はないけど、自分やまわりの人の為にも、デートDVを知っておきたいと思いました。	女性1年生
話をきくまではデートDVについて知らなかったけど、怖いって思ったし、たくさんの方が被害にあっていると思うと自分も気をつけなければならないと思いました。	女性1年生
「デートDV」という言葉をあまり聞いたことがなかったけれど、今回少しでも知れてよかったです。相談できる機関もあるし、周囲がより理解してくれるようになれば、解決により近づくんだろうなと思いました。	女性1年生
人を大切にしたいと思いました。	女性1年生
デートDVについては聞いたことがなかったけど、この調査票で自分の意識について考えることができてよかったです。しっかりと相手のことも考えられる人間になりたいと思いました。	男性1年生
デートDVは、肉体的だけでなく、精神的にも重くのしかかる問題なんだと思った。愛している人のことを暴力によって圧迫するということは絶対ありえないので、必ずなくなってほしい。自分も、心の底から相手のことを大切にしたいと思い合せて、互いの意見を尊重できる彼女をつくれたらいいと思う。	男性1年生
いい勉強になったです。	男性1年生
恋愛に対してもっとしっかりと考える。	男性2年生
自分が大人にならなあかんと思った。	男性3年生
いろいろと勉強になった。	男性3年生
デートDVについて良く分かった。	男性3年生
少し学習できた。	男性3年生
デートDVは危ないことだと思った。	男性3年生
デートDVということをいままでまったく知らなかったのので、今日はじめて聞いて、自分が交際したときに気をつけなければいけないと思った。	男性3年生
こんなことはあまり知らない話だったので、一度こういう機会を知れてよかった。	男性3年生
考えたこともなかったのので、改めて考えさせられた。	男性3年生

### 【対策】(9件)

加害者の暴力を罰せられるような制度や法律をちゃんとした方が良かったと思った。	男性1年生
やってはいけないことはすべて法律で禁止すればいいと思いました。	女性2年生
警察がもっと積極的になるべきだと思う。	女性2年生
相手を大切にしたらいいと思う。	女性2年生
暴力ふられる側が強くなること。	女性2年生
このようなアンケートを取るということはDVがまだ世の中にたくさん存在するのだ	女性2年生

ということが分かった。もっと相談できる場所を設けることが必要だと思った。	
デートDVがなくなるように、自分たちの努力が必要やと思う。	女性2年生
私はデートDVはやったことないけど、友達に対して、なあなあみたいなかんじで肩たたいたり、イラついたとき物に当たったりするから、嫌な思いしてはる人はいると思うし、少しずつでも無くしていきたいです。そして、もしDVをしてる人がいるなら、私は止めたいと思いました。	女性2年生
私には交際している彼氏がいます。でも、喧嘩になった時はちゃんと会って話し合おうと決めています。暴力だけは絶対しないと約束もしてるのでそういうことが大切だと思います。	女性3年生

#### 【相談】(9件)

少し前、カウンセリングを受けさせてもらっていて、やっぱりDVとかはなくならないのかなって思いました。	女性1年生
デートDVみたいなことって身近な人にも相談するのってすごい難しいと思うし、できない。いざ自分がそうなったとき、絶対できないものだと思う。	女性1年生
このアンケートについてというか、相談センターの窓口が女性相談が多すぎると思う。男性でデートDVを受けている人がいるなら、もう少し窓口を増やしてあげた方がいいと思う。でも女性の窓口数は減らすべきではない。	女性1年生
デートDVをされたならすぐに、自分のことを助けてくれる人に相談する。	男性1年生
警察や学校に相談したところで、相手にされないのが今の日本の状況だと思う。けっきょく何の意味があるのか分からない。	男性1年生
メールで相談できるようなものがあればよいと思う。	男性2年生
よく知らないが、もしあったとき、周囲に言いにくいと思う。性的なものになると余計いいにくい。全く知らなくて、関係ない人にメールとかで気軽に相談できたらいいと思う。	女性3年生
なくすために相談したい人がいると思うけど、メールとか、電話だったら恋人にかくれてしなくてはいけないと思うし、それが見つかればもっとDVがひどくなる気がする。だから、もう少し何かを考えてほしい。	女性3年生
このアンケートを通してデートDVに悩んでる人が気軽に相談できる環境があればいいなと思います。	女性3年生

#### 【デートDVの体験】(4件)

私の身近にもあったことなので、自分には関係のない話ではないなと思った。	女性1年生
前の彼氏にされていたので答えづらかった。	女性1年生
デートDVに私自身あっていたのできつかった。半年間苦しんだけど友人たちが助けてくれたし、今の彼も助けてくれた1人なので周りの理解はありがたい。少しでも多くの人に知ってもらいたい。	女性2年生
彼女がよくします。	男性3年生

#### 【交際で気を付けること】(4件)

彼女の立場をしっかりと考えた上で行動しようと思う。	男性1年生
とりあえず人間を自分の好きにしていればはずはないので人格を束縛したりしてはいけないと思う。	男性3年生

人の考え方はそれぞれの自由だから他人の意見も考慮して異性の人と関わるべきだと思う。	男性3年生
男女の交際では上手くいかないこともありますが、相手が嫌だと思ふことは絶対にしてはいけないと思います。	女性3年生

**【男女平等】(3件)**

男女平等にならないといけないと思った。女はこうで、男はこうと決めつけるのはダメです。	女性1年生
全ての人間は平等だと思う。男でも女でも人間なのだからどっちが優れているか、上なのかという考えは間違っていると思う。	女性1年生
男女は平等でないといけないと思った。	男性1年生

**【その他】(70件)**

## 5. 調査結果からみた課題

### 調査結果からみた課題

## 平成 26 年（2014 年）京都市「デートDVに関する意識調査」

### 分析と意見

神戸大学・立命館大学大学院非常勤教員 伊田 広行

#### 1 はじめに

平成 26 年（2014 年）京都市「デートDVに関する意識調査」（以下、本調査、あるいは 2014 年調査と呼ぶ）は、京都市内に拠点を置く高等学校に調査協力を依頼し、協力を得られた 5 校に在籍する学生を対象に平成 25 年 1 月から平成 26 年 1 月に行われたものをまとめたものである。京都市ではすでに平成 24 年（2012 年）3 月に発表された京都市男女共同参画推進協会編集『デートDVに関する実態調査』（京都市発行。以下、2012 年調査と呼ぶ）があるが、この 2012 年調査は大学生のみが対象という制限があった。今回の 2014 年調査は高校生が対象であり、両調査によって京都市における若者のデートDVにまつわる意識と実態がより一層明らかになったと言える<sup>1</sup>。以下、数点にわたって本調査が示すものを確認し、いくつかの課題を整理しておきたい。

#### 2 恋愛観・ジェンダー観

「問 2 価値観・恋愛観について」では、他の調査ではあまり聞かれたことがない項目が調査対象となっており、それによって高校生の恋愛観・ジェンダー観が一定つかめる。

特徴的なものとしては、まず「6 付き合っている 2 人の間に、秘密や隠し事をしてはいけないと思う」で、「そう思う」と「どちらかと言えばそう思う」の合計で見ると、女性で 34.9%、男性で 39.9%と 3 人に 1 人以上がそう思っており、この価値観が束縛、携帯チェックなどのDVの蔓延の基底となっていることがうかがい知れる。

その他、デートDVにつながりやすい恋愛観の項目で割合が相対的に高いものを見ておくと、「8 彼氏・彼女に対しては、自分が説教したり、教育などをしてもよいと思う」で、女性で 32.5%、男性で 37.8%とおおよそ 3 人に 1 人がそう思っていた。「1 2 暴力を振るわれる方にも問題があると思う」では、女性で 25.3%、男性で 31.1%が、「1 3 相手が同意しない限り別れることはできないと思う」では、女性で 26.3%、男性で 27.8%がそう思っていた。

つまり、つき合うと秘密や隠し事はだめで、説教は OK で、別れには同意が必要で、もし暴力を振るわれているならその被害者の方にも問題があるから加害者だけが悪いとは言えないと思うような人が 3～4 人に 1 人ぐらいいはいるということである。このあたりの数値が高いのは、先の 2012 年の大学生調査でも同様であった。

---

<sup>1</sup> 2012 年調査は、大学生に限定され、かつジェンダー関係の授業を受けてデートDVについての学びをある程度受けた者が一部含まれているという偏りがあった。



一方、2012年の大学生調査との差がられた点のひとつが、「1 彼氏・彼女がいないのはかつこ悪い」という項目で、大学生男性が30.2%であったのに対し、高校生では男性11.5%、女性3.2%と低く、この点では、高校生ではまだ大学生ほど「恋愛していないこと（リア充<sup>2</sup>ではないこと）への劣等感」にはとらわれていない状況であるということが明らかになった。

ジェンダー観の関連では、「4 男性は弱音を吐くべきではないと思う」の問いで、大学生男性では30.6%がそう思っていたが、高校生男性では、40.3%がそう思っており、大学生以上に高校生は強くこの意識にとらわれているといえる。また「2 女性は子育てを優先させるべきだと思う」が女性で45.7%、男性で48.1%と約半数にも近い数字となっている。大学生調査でも類似の質問「子育て中は、女性は家庭にいるべきだ」で、男性46.5%、女性27.7%と高かったが、大学生女性は高校生に比べてかなり低く、大学生の女性になるとこれへの批判意識が高まる傾向があると見受けられる（高校生の中でも学年が上がるにつれて賛成は減っている）。しかし全体として性別役割（ジェンダー）意識は強固で、男女平等やDV撲滅の立場から見ると、こうした意識はDVをもたらしやすくなることもあり、早い段階からのジェンダー平等教育の充実を再確認させられる。

他方、「3 女子は口ごたえせず、男子の意見に素直に従うのがかわいいと思う」「9 女性が嫌がっても、恋人なら性的な行為をしてもかまわないと思う」「7 彼氏・彼女を束縛（行動チェックや人間関係の制限など）してもかまわない」「9 女性が嫌がっても、恋人なら性的な行為をしてもかまわないと思う」「10 性関係を持ったら、相手は自分のものだと思う」「11 嫉妬からの暴力（殴る/殴られる）は、愛している（愛されている）証拠だと思う」「14 多少の暴力は男らしさだと思う」といった項目ではおおむね、そうは思わないという意見が多数を占めていた。

したがって、単純にデートDVを容認しているとは言えず、このように正面から「こういうことはいいか」と聞かれれば、殴るような暴力や束縛や性行為の強要はよくないことで、男らしさだとか愛情だということで正当化はしていないし、女性だから黙って従うというわけでもないと答える状況ということである。ただし束縛をどのように理解しているかという問題があり、のちに見るように実際にはかなり束縛などが広く存在しているので、一般論としてはDVはだめと思っているが、自分のしていることやされていることをDVだと気付かずにいるということにも注意を向けておくべきである。

なお、「男性は弱音を吐くべきではないと思う」「女性が嫌がっても、恋人なら性的な行為をしてもかまわないと思う」「性関係を持ったら相手は自分のものだ」「付き合っている2人の間に、秘密や隠し事をしてはいけないと思う」「暴力を振るわれる方にも問題があると思う」「相手が同意しない限り別れることはできないと思う」などでは、そう思う男性が女性よりもある程度多くなっているという特徴がみられた。デートDV加害が男性に多いことと併せて考えると、傾向として特に男性の意識に問題が多いと言える。

性別役割分担（ジェンダー）意識が全体としては保守的なものが多いと先に述べたが、その性別役割（ジェンダー）意識が強いグループ、弱いグループ別に、クロス集計すると、おおむね性別役割（ジェ

---

<sup>2</sup>リア充（リアじゅう）とは、恋人や友人付き合いに恵まれる、サークル活動や飲み会へ参加する、オタク以外の趣味を楽しむなど、リアル（現実）の生活が充実している人物を指す2ちゃんねる発祥のインターネットスラングで、若者言葉でもある。2011年には女子中高生ケータイ流行語大賞の金賞に選ばれるなど、ギャル語としても確固たる地位を獲得している。近年では普通の若者が主に実際の恋愛をしているかどうかで使用されるようになっている。

ンダー)意識が強いとデートDVにつながるような意識も高くなっているという傾向が見て取れた(本文16,17ページ)。

たとえば、「付き合っている2人の間に、秘密や隠し事をしてはいけないと思う」ということに性別役割肯定派は男性21.0%、女性8.5%が「そう思う」であったのに対し、性別役割否定派は、男性8.5%、女性5.3%しかなく、かなり低かった。

またある項目でデートDV容認的とみなせる人は、ほかの項目でも同様の傾向が高いということが、いくつかのクロス集計で認めることもできた(18~21ページ)。例えば、「性別・2人間での秘密や隠し事をしてはいけない」に賛成する人は、「相手が同意しない限り別れることはできないと思う」でも高い割合となっている(19ページ,表2-7)。『そう思う』(「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計)でみたとき、「秘密や隠し事をしてはいけない」の賛成派は、「別れに同意がいる」が女性で35.6%、男性で36.7%であったが、反対派では、女性で21.4%、男性で21.6%で、男女ともおよそ15ポイントの差があった。

### 3 恋愛の実態, デートDV被害/加害の実態

本調査問3-2では、「デートDV」について知っているかをたずねているが、男女とも「まったく知らない」の割合が最も高く、女性45.3%・男性58.0%で、次の「あまり知らない」女性29.2%・男性23.4%と合わせると、4人に3人以上がデートDVのことをほとんど理解していないということになる。デートDVとは何なのか、精神的なものも含め正しくとらえないと、DVの被害にあっていることも、加害をしていることも分からないので、早急にデートDV防止教育を全員に提供すべきことが明らかとなっている。

問3-3で、身近でデートDVを見たり聞いたりしたことがあるかたずねたところ、『ある』(「よくある」と「少しある」の合計)と回答した割合は女性10.0%、男性5.1%で、女性の方が4.9ポイント高かったが、全体としてはあまり多くない数字であった。「見たり聞いたりしたことがまったくない」が、女性74.2%、男性81.3%、「あまりない」が女性15.0%、男性12.2%で、9割ほどが見聞きしていない回答であった。これは2012年の大学生調査での見聞きありが4割程度という数字と大きく異なっている点であり、高校生では恋愛経験している者が大学生より少ないことや、デートDV防止教育が非常に不十分でDVの理解が低い、あるいはまったくないこと、恋愛間の生々しい状況など知らない者が多いということなどの結果であろうと思われる。

またこの問題は聞き方にもよると思われる。岐阜県環境生活部男女参画青少年課『若年層における交際相手からの暴力に関する調査 報告書』(平成26年3月,以下、「岐阜県調査」と呼ぶ)では、高校生だけでなく大学生も含むこともあるが、2014年京都調査よりもDVの見聞きの割合が高かった。具体的に「携帯電話等の履歴やメール内容等をチェックする」を見聞きしたか、「友人と会うことや外出などの行動を制限する」を見聞きしたかと13項目について個別ごとに聞き、最後に「上記のどれも見聞きしたことはない」という選択肢がある聞き方であったために、「どれも見聞きしたことはない」は56.2%にとどまった。知識が不十分なままデートDV一般を見聞きしたことがあるかと聞くより、具体的に聞いたほうが思い当たる人が多いのだと推察される。

次に、現在と過去の交際経験を聞いたところ、「現在恋人がいる」と「いたことがある」の合計で見ると、女性で40.1%、男性で41.1%となっていた。「彼氏・彼女がいたことはない」が女性で23.5%、男性で24.8%であった。つまり、4割は交際経験があり、約25%、4人に1人は交際経験がないということである(図4-1)。

ただし、本文(25ページ)で記しているように、問4(1)では無回答が多いので、問4(2)(3)に回答している者は交際経験があると推察して調整した数字が上がっている。それによると、「無回答者のうち問4(2)(3)の回答者」が女性で20.7%、男性で18.9%いるので、これも合計すると、男女とも6割ほどが交際経験があるとみなすことができる結果となった<sup>3</sup>。

2012年大学生調査では、女性では「今、交際している相手がいる」が35.9%、「相手がいたことがある」が28.4%で、合計64.1%が交際経験ありで、無回答も17%ほどあったので、これも考慮すると7割以上が経験ありとみなせた。男性も現在26.3%。過去33.6%、合計59.9%が交際経験ありだった。高校生と比較して少し高めと言えよう。

私たちが覚えておくべき数字としては、高校生、大学生は5~6割以上が交際経験があるということである。その中に一定割合でデートDVがあるとみなせるので、このデートDV問題は決して一部の例外的な生徒の問題ではないという認識を持たなくてはならないことが再度確認されたと言えよう。

学年別で見た場合、「現在あるいは過去に交際経験あり」が高1から高3で、男性34.7%、39.7%、44.2%、女性38.8%、40.6%、41.7%と高くなっていき、無回答の調整を加えるとおよそ男性59%、62%、59%、女性61%、60%、62%となっている(表4-1)。ここからわかることとして確認しておくべき点は、高校1年ですでに恋愛経験の割合がかなり高いということであり、中学生段階でのデートDV防止教育が必要だということである。

次にデートDVの被害実態をつかめる問4-4についてみておくと、「交際相手を怖い」と感じたことが『ある』(「ある」と「少しある」の合計)のは、女性22.9%、男性13.7%であった。「交際相手に絶対にさからえない」と感じたことが『ある』のは、女性11.5%、男性6.1%、「交際相手を自分より上(対等ではない)」と感じた割合は、女性14.0%・男性10.1%であった(図4-4)。これらの問いはDVの重要な指標とみなせるので、1~2割にDV被害経験があるという数字としてとらえておくべきである。また女性の方が高いので、携帯チェックなどの軽いものでは男性の被害も女性と同じように高いが、怖さを感じる程度になると、女性の方が被害が多いと理解しておくことが、2012年大学生調査と同じく、今回の調査でも明らかとなったといえよう。

問5で「交際相手にしてもよいと思うもの、思わないもの」について問うているが、身体暴力でさえも、女性の4.2%・男性の7.8%が『してもよい』(「してもよい」と「ときにはしてもよい」の合計)と答えているという事実には注目しておく必要がある。40人のクラスに2~3人はそう考えている生徒がいると思うと、それはけっして無視してよい数字ではない。ましてや、「壁をたたいたり、物をけつたりする」や「殴るふりをする」については『してもよい』とする割合は男女とも20%前後にもなっ

---

<sup>3</sup> この点に関して、岐阜県の同種調査では以下ようになっており、おおむね近い数字とみなせる。高校生で「現在交際相手がいる、あるいはこれまでにいた」のは男性47.9%、女性60.3%、「現在交際相手はおらず、これまでもいなかった」のが男性43.6%、女性32.0%、「無回答」が男性8.5%、女性7.7%であった。岐阜県環境生活部男女参画青少年課『若年層における交際相手からの暴力に関する調査 報告書』平成26年3月

いる。

その他のデートDVの種類、すなわち精神的DVなどでは、DV容認的な数値がいつそう高くなっている。精神的なことでは、「無視する」で、女性32.8%、男性33.0%と3人に1人が『してもよい』としている。「大声でどなる」が女性23.2%、男性28.5%、「携帯電話やメールにすぐ返事をしないと怒る」が女性25.1%、男性18.5%が『してもよい』と回答している。『別れたら死ぬ』と「おどす」を認める者は少ないものの男性では6.5%いたことも忘れてはならない。

社会的なDVでは、『バイトや部活など』と『自分(恋人)といる時間』とどちらが大切かと聞くで女性40.3%・男性36.5%、「異性の友人と会うと怒る」で女性31.8%・男性24.2%、「携帯電話をチェックする」で女性20.8%・男性21.2%、が『してもよい』となっており、非常にDV容認的な意識が高い。

性的なDVでは、「友だちに二人の性的な関係を話す」で女性33.8%・男性27.9%、「無理やり抱きついたりキスをしたりする」では女性25.8%・男性18.9%で『してもよい』となっている。

以上より、かなり多くの項目で、DV容認的な意識が2~3割ほどの高い割合であることが確認されたと言える。2~3割と言えば、クラスに8~12人もいるのであるからDVが蔓延するのはある意味当然であろう。デートDV防止教育の充実が急務と言える。

また各項目で男性の方がDV容認的と言えるが、数値は女性もかなり近く、また「携帯電話やメールにすぐ返事をしないと怒る」の項目などでは、女性の方が男性より「してはならない」の割合が低くなっていた。DVは男性が上/強者、女性が下/弱者、したがって加害者は男性というジェンダーも影響しているが、女性加害者も多いことから、女性でもDV容認的な恋愛観をもっていることによって加害者になっていることが再確認される。

問5-2で、デートDVの被害に遭った時の相談先についてたずねており、これまでなされた各デートDV調査と同じく、「友だち・先輩」の割合が最も高く、女性75.3%・男性59.9%で、次いで、「親」が女性34.0%・男性29.2%でえあつた。2012年大学生調査では、「親への相談」が女性20.0%・男性25.0%であったので、高校生調査で幾分親への相談が高いのは年少の高校生ということが影響しているのかもしれない。実際、学年が低いほど親への相談割合が高くなっている。

また2012年大学生調査では、相談先が「友だち・先輩」の割合が女性95.6%・男性91.7%ときわめて高かったので、この点も高校生との差である。

この相談先の点で危惧し、また反省すべきは、デートDVについては、それについて専門的な知識・能力をもった(／もつべき)先生や警察、そしてNPOや男女共同参画センターの相談室などを利用することが大事であるにもかかわらず、そこが非常に低いという点である。特に「学校以外の相談機関」が非常に少ないのは、そういう相談先が知られていないし、信頼も得ていないということであろう。先生とはいえこの問題には不勉強で適切な対応ができない人がいるのが現状であろう。

したがって、政策・制度的には、教師への研修充実とともに、学校内にデートDVに詳しい責任者を養成・設置すること、およびデートDV(ストーカー、恋愛問題)と言えば、「ここに相談するのが一番いい」と若者みなに思ってもらえるような専門的な外部相談先が知られること(そのためにもそうしたデートDV何でも相談共通番号のようなものが存在すること)が今後非常に重要であると言える。これについては、生徒自身が「デートDVをなくすためには、どうしたらよいと思うか」の問に対して、「身近に安心していつでも相談できる場所があること」(女性47.7%・男性33.3%)と多くの者が答えてい

ることからもニーズがあると言える。

#### 4 課題と提言

本稿で課題として確認されたことを再度ここでまとめておきたい。

●デートDVについて知らない者がまだまだ多いので、デートDVとは何なのか、精神的なものも含め正しくとらえるようなデートDV防止教育を早急に全員に毎年提供する必要がある。毎年行って、定着させていくことが望ましい。これによって、加害者のDV的行為の正当化や無自覚という前提をまずはつぶす基盤／土壌づくりをしておくことが重要である。

●恋愛観について、デートDV容認的なことを当然と思わないような恋愛教育・性教育が必要である。「秘密や隠し事をしてはいけない」「別れには同意が必要」「異性の友人と遊ぶなどについては、束縛はあってもよい」「説教してもよい」「暴力を振るわれる方にも問題がある」といった「常識」を変えてく教育が必要である。

●男性はこうすべき、女性はこうすべき、性役割はあって当然というジェンダー容認意識も広く存在し、それがまたデートDVにもつながっているため、ジェンダー平等教育を充実させることが必要である。

●今後の調査の在り方として、2014年岐阜県調査のように、具体的に「携帯電話等の履歴やメール内容等をチェックする」を見聞きしたか、など10数項目について個別ごとに聞き、最後に「上記のどれも見聞きしたことはない」という選択肢がある聞き方をすることが望ましい。

また「被害を受けたか、加害行為をしたか」を具体的に「次のようなことをしたこと、されたことがあるか」と40以上の項目において細かく尋ねる調査をすることが望ましい。

また2012年調査から引き継いだ課題であるが、恋愛観やジェンダー意識とDV加害/被害の関係性を詳しく見るような設問を作っていくことが必要である。そのためにも被害者の心理、加害者の心理を浮き彫りにする作業とも重ねて、デートDVやストーカーに巻き込まれるリアリティをうまくつかむ設問を作らねばならないと言える。この種の調査は聞き方によって反応（回答）が大きく変化することに注意すべきである。

●2012年調査から引き継いだ課題として、性的マイノリティを意識する点も存続している。

●高校1年ですでに恋愛経験がかなり高いことから、中学生段階でのデートDVに関する調査と防止教育が必要である。

●二次被害をなくすためにも、被害生徒、加害生徒に教育的にかかわるためにも、デートDV(ストーカー)について、教師への研修の充実とともに、学校内にデートDVに詳しい責任者を養成・設置することが必要である。

●デートDV(ストーカー、恋愛問題)について、電話やメール、面談で、若者が安心して相談できる学校外の機関(場：専門的な外部相談先、デートDV何でも相談共通番号)が必要である。また、同時にそ

れが皆に周知されることも必要である。

最後に、本調査及びこれまでデートDV防止教育に携わってきた中から間接的に導き出せる今後の課題として2点、提言しておきたい。

1点目は別れについての教育である。本調査で示された、一定の被害があるという実態や、「別れには同意がいる」という誤った認識があることなどを踏まえるならば、加害者との安全な別れ方について今後より積極的に教育していくことが必要であると思われる。

従来行われてきたデートDV防止教育では、「被害にあった時には誰かに相談しましょう」ということを伝えることが主であった。しかし、2013年10月に東京三鷹市で女子高生が元交際相手から刺殺された事件にみられるように、別れ話を巡っての事件などが相次いでおり、DV／ストーカーに対しての実践的な対処法を教育していくことが今後の重要課題であると思われる。

具体的には、別れについての正しい考え方、DV／ストーカーの見分け方、具体的別れ方、相談先などについて詳しく教えることが必要である。まずDV被害者が別れやすくなるよう、そして加害者が間違った考えをもって加害行為を悪化させないように、「別れない権利／執着する権利はない。別れに納得するまでは関係は終われないという考えの正当性はない」というルールを教えることである。

加害者は、自分がなぜ恋人から捨てられるのか、その理由を知りたい、知る権利がある、そうしないと納得できないと思っていることが多いが、それに対しては、そういう考えが間違いで、離れていく相手が明確な別れの理由を言えない場合もあり、明確な理由などないこともあり、また理由を言ってもフラれる方は納得などできないことが多いのであるから、相手が明確な別れの理由を言わなくても、フラれたらあきらめなくてはならない、それを受け入れないで抵抗するのはDVなのだと教えることが必要である。被害者もこのことを知って、自信をもって別れていいのだ、相手が納得してくれなくても別れることに罪悪感を持たなくていいと知る必要がある。そのうえで、具体的な別れ方を伝授していく必要があるが、それは本稿の目的から離れていくので、以下は省略する。

2点目は、被害者／加害者への支援体制の確立である。デートDV防止教育をする中で、生徒の中から被害相談が出てきたり、加害者が学内に発見されることが十分予想され、それに高校(中学、大学も)は対処しなくてはならない。これに対しては、筆者は次のように考えているので、提言しておきたい。

各学校には恋愛している生徒がかなりおり、必ず被害者も加害者もいる。しかし教師は忙しく、他にすべきことを多く抱えているのが現状であろう。したがって将来の理想として、教師の数を増やし、余裕がある中で加害生徒や被害生徒とじっくり関係を作っていけるようにすることが必要である。また学校の外(地元)に「デートDV」の加害者が通える「加害者教育プログラム」があること(あるいは学校に、加害者教育に専門的な人が来て特別指導をする体制が組まれること)、それを支える法律的整備、財政的支えなどが整うことなどがあれば理想的と言える。

ただし当面その理想が実現することはないであろう。したがって面前にいるDVの被害生徒・加害生徒に対して、熱意ある教師が、そのDVが疑われる生徒(カップル)に声をかけて、毎週話を聞いていくことが必要である。「あなた(たち)のことが心配だから、毎週話をしよう。様子を聞かせてよ」と言って、各人ごとに個別面談の場所と時間(30分から1時間程度)を設定し、「この1週間どうだった?」と、聞いていくようなかわりが望ましい。そのカップルのDVの程度を見極め、継続的に見守り、悪化を防ぐこと、改善の端緒を見出すことが必要である。個々のケースで異なり、家庭事情も様々で、法的整備もなく、前例もなく、簡単ではない場合が多いかと思われるが、教師は現実の事例を前に

して学びながら手さぐりで実践していくしかない。その積み重ねが経験値を上げ、地域の対応力を高めるであろう<sup>4</sup>。

以上

---

<sup>4</sup> 本稿で少し触れた今後のデートDV防止教育の改善内容や、具体的な生徒指導のあり方については、筆者が準備中の本(仮題『DV／デートDV／ストーカー対策のネクスト・ステージ』)で多角的に展開しているところである。詳しくはそちらを参照していただきたい。

## 6. 調査票

### デートDVに関する意識調査

この調査は、『DV防止のためには、高校生・大学生など若者の間での暴力をなくすことが大切』という考えから、デートDVの防止に役立てるために京都市が実施するものです。DVとは、夫婦や恋人など、親しい関係の人から受ける暴力によって支配されてしまう関係のことで、特に恋愛における交際相手からのDVをデートDVといいます。ぜひ調査にご協力をお願いします。

お名前を書く必要はありません。

回答はこの調査以外では使いません。

回答用紙は責任をもって管理・処分します。

答えにくい設問については、答えなくても結構です。

途中で気分が悪くなったり、つらくなったりした時は、記入を中断してもかまいません。

問1 あなたのことについて教えてください。

- (1) あなたの性別を教えてください。 ① 女性 ② 男性
- (2) あなたの学年を教えてください。 ① 1年生 ② 2年生
- (3) 自分の事が好きですか? ①好き ②まあまあ好き ③あまり好きではない ④きらい
- (4) 恋愛や性についての情報はどこから得ていますか (〇はいくつでも)
- ①テレビ・ラジオ ②DVD・ビデオ (映画など) ③雑誌 ④マンガ ⑤ゲーム ⑥本 ⑦友人・先輩  
 ⑧交際相手 (彼氏・彼女) ⑨親 ⑩きょうだい ⑪先生 ⑫授業 ⑬携帯 (インターネット)  
 ⑭パソコン (インターネット) ⑮その他 ( )

問2 次のような価値観・恋愛観について、あなた自身はどう思いますか。(〇はそれぞれにひとつ)

質問事項		回答			
		①	②	③	④
1	今の社会は、男女の不平等がまだまだあると思う	そう思う	どちらかといえば そう思う	どちらかといえば そう思わない	そう思わない
2	女性は子育てを優先させるべきだと思う	そう思う	どちらかといえば そう思う	どちらかといえば そう思わない	そう思わない
3	女子は口ごたえせず、男子の意見に素直に従うのがかわいいと思う	そう思う	どちらかといえば そう思う	どちらかといえば そう思わない	そう思わない
4	男性は弱音を吐くべきではないと思う	そう思う	どちらかといえば そう思う	どちらかといえば そう思わない	そう思わない
5	彼氏・彼女がないのはかっこ悪いと思う	そう思う	どちらかといえば そう思う	どちらかといえば そう思わない	そう思わない
6	付き合っている2人の間に、秘密や隠し事をしてはいけないと思う	そう思う	どちらかといえば そう思う	どちらかといえば そう思わない	そう思わない



	質問事項	回答			
		①	②	③	④
7	彼氏・彼女を束縛（行動チェックや人間関係の制限など）してもかまわない	そう思う	どちらかといえば そう思う	どちらかといえば そう思わない	そう思わない
8	彼氏・彼女に対しては、自分が説教したり、教育などをしてもよいと思う	そう思う	どちらかといえば そう思う	どちらかといえば そう思わない	そう思わない
9	女性が嫌がっても、恋人なら性的な行為をしてもかまわないと思う	そう思う	どちらかといえば そう思う	どちらかといえば そう思わない	そう思わない
10	性関係を持ったら、相手は自分のものだと思う	そう思う	どちらかといえば そう思う	どちらかといえば そう思わない	そう思わない
11	嫉妬からの暴力(殴る/殴られる)は、愛している(愛されている)証拠だと思う	そう思う	どちらかといえば そう思う	どちらかといえば そう思わない	そう思わない
12	暴力を振るわれる方にも問題があると思う	そう思う	どちらかといえば そう思う	どちらかといえば そう思わない	そう思わない
13	相手が同意しない限り別れることはできないと思う	そう思う	どちらかといえば そう思う	どちらかといえば そう思わない	そう思わない
14	多少の暴力は男らしさだと思う	そう思う	どちらかといえば そう思う	どちらかといえば そう思わない	そう思わない

問3 「デートDV」についてお尋ねします。

- (1) あなたは、「デートDV」という言葉を聞いたことがありますか。 ①ある ②ない
- (2) あなたは、「デートDV」を知っていますか。  
①よく知っている ②少し知っている ③あまり知らない ④まったく知らない
- (3) あなたは、身近で「デートDV」を見たり聞いたりしたことがありますか。  
①よくある ②少しある ③あまりない ④まったくない

問4 交際相手（彼氏・彼女）との関係についてお尋ねします。

- (1) あなたは、交際している相手（彼氏・彼女）がいますか？
- ①今、交際している相手がいる  
②今、交際している相手がいないが、以前いたことがある  
③交際相手がいたことはない ⇒ ⇒ ⇒ 3ページ問5に進んでください。
- } ⇒ (2)に進んでください。

※ここからは、(1)で「①交際相手（彼氏・彼女）がいる」「②いたことがある」と答えた人への質問です。「③いたことはない」と答えた人は、3ページ問5へ進んでください。

- (2) 交際相手と出会ったきっかけを教えてください（○はいくつでも）
- ①友人・先輩からの紹介 ②きょうだいからの紹介 ③部活・クラブ活動 ④学校

- ⑤塾・学校外のクラブ活動      ⑥アルバイト先      ⑦インターネット・HP      ⑧携帯サイト  
⑨その他 (                          )

(3) 次の質問項目について、当てはまるものを1つ選んで○をつけてください。

- 1 あなたは、交際相手を怖いと感じたことがありますか？  
①ある      ②少しある      ③あまりない      ④ない
- 2 あなたは、交際相手に絶対にさからえないと感じたことがありますか？  
①ある      ②少しある      ③あまりない      ④ない
- 3 あなたは、交際相手を自分より上（対等ではない）と感じたことがありますか？  
①ある      ②少しある      ③あまりない      ④ない

**問5 すべての人への質問です。**

(1) 4ページの一覧から、交際相手にしてもよいと思うもの、思わないものを選び、表に直接○をつけてください。

(2) あなたが、もしデートDVの被害に遭ったら、だれ（どこ）に相談すると思いますか？（○はいくつでも）

- ①友だち・先輩      ②親      ③きょうだい      ④学校の先生や相談機関  
⑤学校以外の相談機関（どこに                          ）      ⑥病院      ⑦警察      ⑧その他（どこに                          ）

(3) デートDVをなくすためには、どうしたらよいと思いますか。あなたの考えを教えてください。（○はいくつでも）

- ①デートDVについて（自分自身が）知ること      ②学校などでデートDVに関しての情報が得られること  
③男女の対等な関係について学ぶ場があること      ④身近に安心していつでも相談できる場所があること  
⑤メールでの相談窓口があること      ⑥電話での相談窓口があること      ⑦家族や友人など、周囲の人のデートDVへの理解があること      ⑧学校などにデートDVの相談窓口があること      ⑨加害者の暴力を罰せられるような制度や法律があること  
⑩その他（具体的に                                                  ）

**問6 このアンケートについて、感じたことなどを自由に書いてください。**

ご協力ありがとうございました。 この調査票は、本日から2週間以内にご返送ください。

以下の行為は、交際相手にしてもよいと思いますか？ あてはまるところに ○をつけてください。

**A 身体的なこと**

	してもよい	ときにはしてもよい	してはならない
殴ったりけったりする			
壁をたたいたり、物をけったりする			
殴るふりをする			

**B 精神的なこと**

	してもよい	ときにはしてもよい	してはならない
容姿や能力についてけなす			
大声でどなる			
無視する			
携帯電話やメールにすぐ返事をしないと怒る			
「別れたら死ぬ」とおどす			

**C 社会的なこと**

	してもよい	ときにはしてもよい	してはならない
「バイトや部活など」と「自分（恋人）といる時間」とどちらが大切かと聞く			
携帯電話をチェックする			
自分（恋人）以外のアドレスを消す			
異性の友人と会うと怒る			

**D 性的なこと**

	してもよい	ときにはしてもよい	してはならない
無理やり抱きついたりキスをしたりする			
避妊に協力しない			
友だちに二人の性的な関係を話す			
身体や性的なことをけなす			
アダルト系の雑誌やDVDを無理やり見せる			

**E 経済的なこと**

	してもよい	ときにはしてもよい	してはならない
イヤだと言っても買い物代金や食事代を支払わせる			
貸したお金を返さない			
欲しいものを買ってあげないと機嫌が悪くなる			
バイトや仕事を強要し、給料を取りあげる			

---

## デートDVに関する意識調査

発行 京都市

編集 公益財団法人 京都市男女共同参画推進協会  
〒604-8147 京都市中京区東洞院通六角下る  
京都市男女共同参画センター ウィングス京都  
TEL : 075-212-8013 FAX : 075-212-7460

発行年月 平成 26 年 3 月

---